

令和5年度

保幼小連携・接続実践事例集



掲載した実践事例

- 相互参観（体験）、参観後の協議会等
- 入学児童についての情報交換会
- 管理職を対象とする研修会
- 円滑な接続に向けた合同研修会
- 接続カリキュラムの活用・改善に向けた合同研修会
- 特別な配慮を必要とする子どもの支援についての合同研修会
- 幼児教育施設と小学校の取組

幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けて、各市町村で幼児教育担当者、幼児教育アドバイザーを中心に、幼児教育施設園内リーダーや小学校保幼小接続コーディネーターをはじめとした関係する方々が連携して、様々な取組が行われています。参考にしてください。

茨城県教育庁総務企画部生涯学習課就学前教育・家庭教育推進室

令和5年度 保幼小連携・接続実践事例集 掲載事例一覧（市町村名）

※ 掲載順不同

- **相互参観（体験）、参観後の協議会等**
日立市、那珂市、境町、五霞町、水戸市、大洗町、八千代町、守谷市、利根町、美浦村
- **入学児童についての情報交換会**
龍ヶ崎市、阿見町、小美玉市
- **管理職を対象とする研修会**（管理職と担当者両方対象のものを含む）
河内町、神栖市、行方市、ひたちなか市
- **円滑な接続に向けた合同研修会**
つくばみらい市、坂東市、土浦市、牛久市、高萩市
- **接続カリキュラムの活用・改善に向けた合同研修会**
茨城町、鉾田市、筑西市、鹿嶋市、古河市、桜川市、笠間市
- **特別な配慮を必要とする子どもの支援についての合同研修会**
常総市、稲敷市、石岡市、常陸大宮市、城里町、北茨城市、下妻市、つくば市、取手市
- **幼児教育施設と小学校の取組**
東海村、大子町、常陸太田市、潮来市、かすみがうら市、結城市、境町

複数の項目にわたって取組んでいる場合には、主な内容の方に掲載させていただきました。
ご了承ください。

学区内における幼稚園・小学校の連携・接続の推進

～市計画訪問における相互参観及び協議会を通して～

コロナ禍において幼児と小学生の交流する機会が減るなど、幼児教育施設と小学校の連携・接続の推進に向けて課題が見られた。今年度、市計画訪問での相互参観や協議会を行うことで、幼児教育施設と小学校の連携・接続がさらに推進できるよう計画・運営を行った。

参加者 公立幼：6名（園長、教頭、5歳児担任1名、4歳児担任1名、ことばの教室担当2名）
小学校：4名（教務主任、1学年担当3名）
幼児教育担当指導主事1名

準備 ・保育や授業の様子が見える資料（市計画訪問の指導案や資料、接続カリキュラム等）
・写真（計画訪問での保育や授業の様子、教室環境）
・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の資料

■ 保育参観・授業参観の様子

幼児・児童の遊びや学ぶ姿と保育者・教員の声掛け等の関わりを参観の視点として相互参観を行った。



■ 相互参観後の協議会

相互参観の感想を伝えたり、日頃の保育や授業で大切にしていることなどを話し合ったりした。その後、幼児と児童の交流や接続カリキュラムの見直しの重要性について確認した。

○ 幼児教育施設保育者の感想から

- ・協議会をきっかけに、交流をしたり、小学校の先生方と一緒に子どもたちの成長に携わったりしたいと思いました。
- ・就学前に子どもたちに1年生の授業を見学させることで小学校を身近に感じ、安心して入学できるようにしたいです。
- ・小学校の学習に幼児教育の内容が繋がっていることがわかりました。
- ・今後もこのような機会をつくり、小学校と連携・接続を図りたいです。



○ 小学校教員の感想から

- ・遊びから学びを意識して、環境づくりや声掛けをしていることがわかりました。
- ・育てていきたい力を伸ばしていくために、子どもの発想を汲み取り、深めていく発言を考えることが大切であることが分かったので、授業で取り入れていきたいです。
- ・自然や人との関わりの中で、いろいろな仕掛けをすることで、学びが広がっていくのだと思いました。小学校でも課題提示の工夫をしていきたいです。
- ・お互いに日々の生活や活動のねらいについて知ることができ、良い機会となりました。今後、さらに交流していきたいと思いました。

市計画訪問に合わせた相互参観や協議会を行うことで、幼児教育施設と小学校の特性や学びについて理解を深めることができた。今後、幼児・児童の交流や接続カリキュラムの見直し等による連携・接続の推進をしていきたい。

「那珂市保幼小中連携協議会」を軸とした 保幼小中の円滑な接続の実現

本市では一貫した指導方針の下、幼児教育から小学校教育、中学校教育への円滑な接続を図るために、情報共有や連携事業の在り方について検討するとともに、架け橋期の教育を充実させるため、那珂市保幼小中連携協議会を開催している。行政関係者、小学校長及び中学校長、公私立幼児教育施設の代表者等が一堂に会し、テーマに沿って協議を行う。11月9日（木）、市立ひまわり幼稚園の公開保育と同時に開催された令和5年度第2回連携協議会では、「本市として『架け橋期』で育てたい子ども像」というテーマで意見交換を行った。

また連携協議会事業として、幼児教育施設における小学校教諭の保育体験を実施した。

協議会委員 ⇒ 行政関係：6名、公立幼：1名、私立幼：1名、公立保：1名、
私立保：1名、小学校：1名、中学校：1名

保育体験参加者 ⇒ 市内小学校から各1名

■保幼小中連携協議会 「本市として『架け橋期』で育てたい子ども像」

◇ 協議会委員からの意見から

- ・「『10の姿』を、小学校教員が知る必要がある。」
- ・「遊びや学びに没頭できる子どもを大切にしたい。」
- ・「小学校体験をいつ、どのように設定すべきか。」
- ・「保幼の横のつながりも必要。」
- ・「『10の姿』について、市として具体的イメージを共有し、那珂市の先生みんなで語り合いたい。」
- ・「保幼と小との交流に、中も加われないか。」



■小学校教員による保育体験の実施

◇ 幼児教育施設保育者の意見から

- ・「このような取組を今後も継続していくことが、保幼小の滑らかな接続につながっていく。」
- ・「保育園や幼稚園の職員が、小学校で授業体験をする機会もあるといいのではないか。」

◇ 小学校教員の意見から

- ・「幼児は自分がしたいことをしたいタイミングで行うことで、遊びに没頭できていた。」
- ・「園児が自分の意思で遊ぶ姿に、『個別最適な学び』のヒントを得ることが出来た。」



那珂市保幼小中連携協議会は発足より5年目となり、保幼小中における連携協力の体制が確立しつつある。協議会の意見交換では、異なる所属の参加者が「10の姿」を中心においたよりよい指導體制についてビジョンを共有することができた。今後は連携協議会事業の具体化により、保幼小中共通行動の流れをさらに加速させていきたい。

境町幼児教育と小学校教育の接続委員会

～組織的な研修に関する実践～

概要

学びの基礎力を培う大切な時期である幼児期から児童期にかけて、互いの教育を見通し、連続性・一貫性のある教育を行う必要がある。そこで、保幼小の連携を進め、接続カリキュラムによる円滑な接続を行うために組織された推進委員会を開催した。本年度の計画づくりと接続期に関する研究協議を実施した。

参加者	私立保育園	： 4園4名、私立認定こども園	： 5園5名
	小学校	： 5校5名	
	教育委員会	： 子ども未来課1名	
		学校教育課	： 指導主事2名、学校教育指導員1名、教育相談員1名
		生涯学習課	： 社会教育主事1名

■本年度の事業計画の確認

- 推進委員会：5月18日（木）：計画と実践の在り方（方向性）
 - ①アプローチ・スタートカリキュラムの実践と改善の実施
 - ②連携接続に向けた「幼児教育と小学校教育の接続推進委員会」の実施

■保幼小接続事業、授業と保育の相互参観及び協議の実施

今回の相互参観は英語で実施

7月11日（火）認定こども園 境いずみ保育園で実施

テーマ：『アプローチ（接続期）を意識した就学に向けた生活の取り組みの在り方』

9月12日（火）境町立長田小学校で実施

テーマ：『スタート（接続期）を意識した学習の取り組みの在り方』

<参観後の研究協議より>

- 幼児教育施設保育者の意見から
 - ・小学校1年生の授業の様子を参観し、今後の小学校との接続の在り方など、他の園や小学校の先生方と話し合うことができ、大変有意義だった。
 - ・英語教育での相互参観ができ、保幼からの繋がりを実感できた。
 - ・初めて小学校教育を参観し、45分の授業の進め方が見られてよかった。
- 小学校教員の意見から
 - ・保育園、小学校ともに、英語の授業を参観させていただいたので、接続の視点で見ることができた。
 - ・小学校側の者として、幼児教育施設の先生方とある程度まとまった時間を使って情報交換できる場は大変有益だと感じた。

■保幼小接続のための合同研修会の実施

11月29日（水）：境町幼児教育と小学校教育の接続推進事業研修会

テーマ『発達障害等の気になる子どもの指導と保護者への支援の在り方』

国の保幼小架け橋プログラム事業、本年度の県、境町の取組について確認し、本年度は相互授業参観と研究協議を中心に取り組んできた。幼児教育施設の先生方と小学校の先生方との研究協議では、活発な意見交換がなされ、今後も取組を続けていきたいという要望があり、継続的にこの事業に取り組んでいきたい。

保幼小中連携・接続推進のための保育と授業の相互参観 - 0～15歳の学びをつなぐ交流と共有を目指して -

『幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（令和4年3月31日 文部科学省）』では「義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間（架け橋期）を、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期」としつつ、「0～18歳の学びの連続性」にも配慮することを示している。高等学校を有しない本町では、中学校卒業の15歳までに、自立して生きるための学力と社会性を育むことを目標としている。この目標に向かって、架け橋期を中心に据えながら、15年間の学びの連続性に配慮した取組を行うこととした。保幼小の相互参観に留まらず小小、小中、保幼中の連携・接続も積極的に推進し、学びをつなぐ交流と共有を進めている。

参加者	私立こども園7名、小学校12名（保幼小中連携・接続推進事業担当校長も含む）、中学校4名、教育委員会事務局3名、家庭教育支援員8名
準備等	アプローチカリキュラムの実施状況等の共有、スタートカリキュラムの再周知（3月） 保幼小中連携・接続推進協議会、家庭教育支援推進協議会同時開催（5月） 保育と授業の相互参観（6月、9月、12月） 第1回保幼小中連携・接続担当者会議の開催（7月） 保幼小中連携・接続研修会の開催（8月、保幼小の架け橋プログラムについて） 第2回保幼小中連携・接続担当者会議の開催（2月）

■ 授業参観、保育参観

- ・各園、各校の参加人数を限定せずに実施
- ・全戸訪問で就学前から関わりのある家庭教育支援員も参観
- ・参観後は研究協議を行わず、意見・感想を事務局で集約し、後日、オンラインで研修会を実施
- ・振り返りシートは、こども園、小学校、中学校それぞれの参観の視点を記載したものを使用



■ 担当者会議

○ 授業参観後の協議において挙げた意見・感想

- ・自分の意見を伝える力について幼児期からの積み重ねを感じた。
- ・特性によって工夫は必要だが、やはり視聴覚教材を用いたり、可視化して内容を整理したりすることはどの発達段階でも効果的だと感じた。
- ・思ったことや考えたことを積極的に挙手をして発表するように指導してきたが、小学校でも継続できていたので学びのつながりを感じた。
- ・グループで話合うことや、自らICTを活用することなどについては、段階的な育成が必要だと感じた。



本町の保幼小連携・接続の実践は、令和3年3月に策定した「五霞町版保幼小接続カリキュラム（アプローチカリキュラム+スタートカリキュラム）を中心に据え、相互参観、担当者会議、夏季研修、情報交換会、家庭教育との連携等の取組と関連させながら推進している。「架け橋期」と「学びの連続性」の意図を全員で共有し、自立して生きるための学力と社会性を育てていきたい。

次年度より小学校2校が統合され、小学校1校、中学校1校の併設型小中一貫校がスタートする。育みたい子どもの姿を常に共有し、保幼小中が連携して学びをつないでいきたい。

円滑な連携・接続に向けて

～保幼小連携・接続に関する実践研究～

令和4・5年度の2か年、小学校1校とその学区内の私立保育園及び公立認定こども園1園が本市教育委員会の指定を受け、保幼小の円滑な連携・接続について実践研究を行っている。

これまでの保幼小連携の在り方を見直し、イベント型ではなく生活の一部として継続して取り組める交流方法について探究している内容の一部をここに紹介する。

職員数	私立保育園：27名、公立認定こども園：8名、小学校：27名
幼児児童数	私立保育園：127名、公立認定こども園：40名、小学校：436名

■ 保幼小連携・接続に関する研究協議会

指定を受けた3校(園)による保幼小連携・接続に関する研究協議会を設置。私立保育園と公立認定こども園の園内リーダー、小学校の保幼小接続コーディネーターが中心となって、学期ごとに本協議会を開催し、より良い連携・接続の在り方について協議している。また、その内容については全職員に周知を図っている。

○ 第2回協議会(8月)の主な意見から

- ・他園との交流を通して、責任をもって保育をリードすることや様々な指導の方法を学び、若い職員に自信ができてきた。
- ・型にはまった行事にはしないで、日常的な交流を継続していきたい。
- ・研究実践のまとめとして、つながりを大事にした保幼小連携・接続の年間を見通したカレンダーを作成したい。



■ 保育園・認定こども園職員、小学校教員の相互参観及び小学校一日体験

保育園や認定こども園の保育参観、小学校の授業参観を積極的に実施し、相互理解を図っている。昨年度は2月に小学校一日体験を実施し、私立保育園と公立認定こども園の全職員が小学校1年生の学校生活(朝から5校時の始業前まで)を体験する機会も設けた。

○ 幼児教育・保育施設保育者の意見から

- ・6年生まで参観することで、子どもたちの成長の様子が分かって良かった。
- ・小学校の先生方は個人差に応じた指導をしながら、全体の指導をすることができていて、素晴らしかった。
- ・訪問した際、以前交流した子どもたちから「知ってる」と言われ、交流してきたことが子どもたちに浸透していて嬉しかった。



○ 小学校教員の意見から

- ・保育参観時に職員から説明を受けながら参観ができたことで、保育の意図を十分理解することができた。

小学校教員による保育参観や保育園・認定こども園の職員による小学校一日体験、保幼小連携・接続に関する研究協議会を通して、職員同士がそれぞれの学校・園について理解を深め、円滑に連携することができている。

この成果を市内の小学校と幼児教育・保育施設に紹介していくとともに、引き続き保幼小連携・接続の充実を図っていきたい。

保育・授業参観、合同研修会をとおして、 個に応じた支援の在り方について理解を深める ～大洗町学校教育課・こども課の取組～

町内の学校、幼稚園、保育園(所)の職員が、日常の保育や授業を参観して理解を深める「大洗町保幼小中連携相互参観」を、7月(保育園)、10月(小学校)の2回開催した。本町は「特別支援教育の理解促進と関係機関との連携」が課題であることから、公開にあたっては、「個に応じた支援の在り方」に着目しながら参観した。7月の保育参観では、小中学校教員と保育者との懇談会も行ったことで、貴重な研修、意見交換の場となった。

<第1回7月：大洗かもめ保育園の保育公開>

参加者 公立幼：3名、小学校：6名、中学校：3名、学校教育課：2名 計14名

準備 保育日案、参加者アンケート

<第2回10月：大洗小学校計画訪問の授業公開>

参加者 公立幼：2名、私立保：16名、中学校：8名

こども課：2名、学校教育課：3名（※大洗小職員は除く） 計31名

準備 公開授業資料、参加者アンケート

■相互授業参観について

(1) 実施の経緯

これまで年2回の「大洗町幼児保育・小学校教育連絡協議会」において、接続カリキュラム等に関する講話やグループ協議等の合同研修を実施してきた。しかし、普段の保育や授業を相互に参観する機会はほとんどなく、本町に勤務しているが、お互いのことがよく分からないという職員が大半であった。また、配慮を要する児童生徒が急増する中、円滑に特別支援教育につながらないケースが目立っていた。そこで、保幼小中の保育・指導の実際にふれるとともに、特に特別支援教育の理解促進につなげるため、本研修会を企画することとした。



そこで、保幼小中の保育・指導の実際にふれるとともに、特に特別支援教育の理解促進につなげるため、本研修会を企画することとした。

(2) 参観の様子

第1回目は、保育園を会場に、0歳児から年長児まですべてのクラスを参観し、園長と数名の保育士に加わってもらい、懇談会を実施した。小中学校の参加者からは、保育園のノウハウを日頃の指導に生かしたいとの意見が多く出された。

第2回目は、小学校の計画訪問の機会をとらえ、全学級を公開した。特に、特別支援の個に応じた指導については、普段目にする機会がないため、多くの保育者が関心を寄せていた。

■参加者向けアンケートから

○ 幼児教育施設保育者の意見から

- ・小学校に送り出した子供たちの様子が見られてとても良い機会だった。
- ・特別支援教育の指導の具体が分かった。一人一人に合わせた丁寧な指導に大変感心した。

○ 小学校教員の意見から

- ・勤務校のすぐ近くにある保育園なのに、初めて参観させていただいた。気になる園児に対しても先生方が丁寧に接している点が勉強になった。
- ・先生が笑顔で明るく指導し、子供たちがいきいきと活動している点が印象的だった。

まとめ

- 「日常の保育、授業を見ることが相互理解の第一歩」という認識のもと、保育園と小学校の2か所で相互参観を行った。これまで同様の機会がなかったことから、参加者からは大変好評であった。今後も継続して実施し、町内に勤務する保育者、教職員のすべてが、お互いの施設を行き来できるようにしたい。

幼児教育と小学校教育の学びをつなぐ相互参観

概要

町内小学校の教育長・計画訪問に併せて幼児教育施設保育者の授業参観と保育園・幼稚園代表者の幼児教育施設において小学校教員の保育参観を行い、情報交換を行うことで、幼児教育と小学校教育の学びをつなげるように指導者の連携を推進する。

参加者 幼児教育施設保育者・小学校教員・教育長・指導主事・社会教育主事
準備 授業参観・保育参観の開催案内 学習指導案 保育参観日案 保育参観資料

■ 保育参観・授業参観の実施日程と参加人数

5月 9日 (火)	授業参観 (川西小学校)	4名参加
5月15日 (月)	授業参観 (中結城小学校)	4名参加
5月19日 (金)	授業参観 (安静小学校)	8名参加
5月22日 (月)	授業参観 (下結城小学校)	6名参加
5月31日 (水)	授業参観 (西豊田小学校)	5名参加
11月 8日 (水)	保育参観と協議 (たちばな幼稚園)	5名参加
11月14日 (火)	保育参観と協議 (安静保育園)	4名参加



■ 保育園・幼稚園参観での交換した意見

- 幼児教育施設保育者の意見から
 - ・落ち着いた態度で、授業に臨んでいる姿に成長を感じた。
 - ・ICTを使って学習課題を児童に提示するのを、園でも取り入れていきたい。
 - ・園でどこまで数字や文字を学ばせれば、入学後に園児が困らないのかを知りたい。
- 小学校教員の意見から
 - ・参観した内容が、生活科の学習と似ているので、よりレベルアップした学習をしていかなければならないと思った。
 - ・事前の準備物がたくさんあり、園児がわくわくした表情で課題に取り組んでいた。
 - ・子どもたちが園に来るのが楽しみになるような掲示物などの環境作りをしているので、小学校でも取り入れていきたい。

まとめ

相互参観を実施し、交換した意見の中で、「就学後の学校での様子を聞く機会があれば、今後の保育にも役立てることができる」との声が参加者からあった。保育者と小学校教員が集う研修会を実施し、より一層の学びの接続の推進を図っていきたい。

保幼小連携を促す相互授業参観

昨年度、一部の小学校及び幼児教育施設において相互授業参観を実施してきた。今年度はこれまでの取組をさらに発展させるべく、校長会等での提案、幼児教育施設長会議での周知を行い、計画的に実施をすることにした。市内小学校の計画訪問の際に、幼児教育施設に公開授業の案内を行い、15施設の幼児教育施設担当者による授業参観を実現することができた。夏季休業中には、公立保育所に13名の小学校教員が保育参観に行くことができた。

参加者 幼児教育施設：83名（延べ人数）、小学校：13名（夏季休業中）

準備 授業公開の案内通知、健康観察票 等

■ 幼児教育施設担当者による小学校授業参観

【参観者の感想 一部抜粋】

○子どもたちが、自分の気持ちや意見を自分の言葉で相手に伝える機会がとて多かったです。保育所では、小さいうちから自分の気持ちを受け入れてもらえた、自分を認めてもらえたという安心感を得られるような経験ができるような環境や雰囲気作りをしていくことを大事にしていきたいと思いました。

○前の授業で行っていた「あき」のものを作った製作の改善点を自分たちで考え、工夫して作っていて驚きました。自分で材料を用意して、iPadを用いて比較するところも素晴らしいと思いました。同じものを作る人同士でグループを作っていて、友だち同士で意見を交換しやすく工夫されていて、とても勉強になりました。



■ 市内小学校教員による公開保育参観

【参観者の感想 一部抜粋】

一人ひとりが自分の課題を見つけて取り組み、他の子や先生との関わりをもちながら活動していることが分かりました。「これで何ができるかな。」「何を使おうかな。」等とつぶやきながら材料を選んだり「見て見て！」と他の人に働きかける様子が見られたりと、一緒にいる時間があつという間に過ぎていくようでした。この時間の過ごし方を、1年生職員に伝えるとともに、学校でもできる活動に生かせないかなと考えています。



まとめ

昨年度の取組を発展する形で進めていく中で、それぞれの担当者同士での意見交流を行いたいという声が増えてきた。次年度は保幼小担当者合同研修会の実施に向けて、幼児教育施設担当部署と連携を図りながら、計画を立てていきたい。

「俳句」でつながる利根町の学び ～保幼小中連絡会議における保育参観を通して～

利根町は、令和5年度から一小一中のコンパクトな学校教育体制となり、小学校と5つの私立幼児教育施設との連携・接続がスムーズになると期待しているところです。

今回は、利根町の小中学校で実施されている「心の教育 俳句づくり」と同様の活動が、保育園でも行われていることを知り、保育参観を実施した時の様子をご紹介します。

参加者 私立保：1名、私立こ：5名、小学校：1名、中学校：1名

準備

- ・俳句指導にあたっての保育計画
- ・保育参観記録用紙
- ・利根町とねっ子接続カリキュラム

■保育参観「俳句をよもう 俳句をつくろう」

町内の保育園において、毎月1回のペースで実施されている俳句づくりの様子を参観させていただきました。活動の前には、園庭で思い切り体を動かして遊び、クラスに入ったらお行儀よく先生の話を聞く園児たち。みんな夢中になって先生を見つめています。

五・七・五のリズムを楽しみながら俳句を詠んだり、季節を感じる言葉を発表しながら自分がイメージした情景を発表したりする姿が見られました。

後半は、運動会の思い出を俳句にした自分の作品を発表する活動でした。5文字7文字にぴったりの言葉を見つけられて、嬉しそうに作品を発表することができました。



■協議における主な意見

- **保育参観について**
 - ・活動前に園庭で体を動かして遊ばせたことで、集中できる園児が多かった。
 - ・園児が互いの作品を認め合える、あたたかいクラスの雰囲気よかった。
 - ・感性的にひらがなのよさを感じたり、リズムの楽しさを味わったりしていた。
 - ・俳句を教材とした言葉遊びの楽しさを、小中学校でも継続して体験させたい。
- **接続カリキュラムの再点検について**
 - ・「めざす姿」「先生の関わり」「環境の構成」について接続カリキュラムの見直しを図った。
 - ・統合した小学校においても新たなスタートカリキュラムを作成して実施している。
 - ・アプローチカリキュラムについては、各園ごとに体裁は異なるものの、小学校との接続を意識した計画を立てている。
 - ・架け橋プログラムについても研修や検討を続けていく。

利根町の児童生徒数の推移は年々減少傾向にあり、今後は年間約50名程度の子供たちが小学校に入学する予定である。この子供たちの成長をサポートする教育機関の職員が集まり、「めざす姿」を語り合えた有意義な時間となりました。今後も保幼小中の連携・接続が推進されるよう、こうした取組を充実・発展させていきたいと思います。

統合を見据えた保幼小中の連携体制の構築

～保幼小中の有機的な連携を目指して～

概要 美浦村では、令和7年度に現在ある3つの小学校を統合し、1つの小学校を開校する予定である。開校に当たって配慮する事項の一つとして、児童生徒や保護者、教職員の統合に対する不安（新しい人間関係づくり等）をいかに取り除いていくかが挙げられる。令和5年度はその点について教育委員会と各施設（保幼小中）で協議し（担当者会議の実施）、統合までを見据えた保幼小中連携の計画立案に着手した。

1 統合に向けた保幼小中連携の計画（案）

R5年度

•これまで保幼小中連携についての振り返り（成果と課題の把握）

【成果】相互参観による校種間の理解促進

【課題】架け橋プログラムの作成、配慮を要する児童生徒の共通理解
コロナ禍で生じた児童生徒の体験交流の機会喪失

【先生方の声から】※相互参観にて
・ちゃんと席について勉強できていてすごい！（保育者）
・みんな楽しそうに過ごしていて安心した。（幼稚園教員）
・入学前に〇〇までできるようにしておくよいですね。（保育者）
・ここまでできるようになっているのですね。（小学校教員）

R6年度
前期

•統合前連携の計画及び実施1

【教職員交流事業1】スタートアップカリキュラム作成及び修正（3～4月）、小中連絡会（5月）

【教職員交流事業2】発達段階に応じた園児児童生徒理解研修（5月～7月）

【児童生徒交流事業1】小学校間交流会（行事及び合同授業等）

R6年度
後期

•統合前連携の計画及び実施2

【親子交流事業】園児及び保護者による小学校見学・体験学習の実施

【教職員交流事業3】相互参観及び意見交換会（計画訪問）7月～10月

【児童生徒交流事業2】小中学校間交流会（オープンスクール等）

【先生方の声から】※担当者会議にて
・スタートアップカリキュラムはとても重要。時間をしっかりと確保したいですね。
・保育者と教員の“対話”が重要ですよ。実現するためには、保幼小コーディネータだけではなく、管理職のリーダーシップも必要ですね。

2 相互授業参観（保育参観の様子から）

新型コロナウイルス感染症が第5類に引き下げられたことにより、今年度より参集型での相互参観が可能となった。今年度は幼小中間（保は参観のみ）で授業を公開し合い、園児児童生徒理解に努める機会をもつことができた。

美浦幼稚園 公開授業 5歳児 「サーキット遊び（お相撲をとろう）」
参観者 公立保育所保育者、小学校教員、中学校教員 教育委員

【参観者の感想から】

保育所担当者（A）；用具の工夫が素晴らしく、子供たちがのびのびと体を動かす姿に“なるほど！”と感じる場面がたくさんありました。

保育所担当者（B）；子供たちが主体的に生き生きと活動を楽しんでいる姿がとても素敵でした。工夫を凝らした充実した保育で大変勉強になりました。

小中学校担当者；先生方が上手にやる気を引き出すように声をかけたり、支援したりしながら、子供たちに「自分でできた！」という充実感を与えている姿にとっても感心しました。



【美浦幼稚園の保育について】

教育目標；個性を大切にし、たくましく生きる幼児の育成

本時のねらい

- ・友達と一緒にアイデアを出し合いながら遊びを進める。
- ・相撲や運動器具を使っているいろいろな体の動かし方を楽しむ。

コロナ禍により、R2～R4年度まで園・所・小学校間交流（対面）が中止となり、新就学児（保護者含む）にとっては、不安感が拭えない中での入学を迎えていた。また、働き方改革による行事の見直し等もあり、R5年度当初においても交流事業の見通しは立っていなかった。そのような中で、教育委員会が主導として取り組んだ「統合に向けた保幼小中連携の計画（案）の作成」（担当者会議）は、園・所・小・中学校にとっても改めて連携事業を準備するためのよき契機となった。

幼児教育での学びを生かし、学校教育の学びを充実させるための幼児教育施設、小学校職員との交流について

～入学後の情報交換会を開催～

令和5年1月25日（水）に、幼児教育施設の職員と小学校の職員で入学する就学児について引継ぎを行った。その際、入学後においても、児童について様子を伝えたり、支援方法について共に検討したりする場があるとよいという意見をいただいた。そこで、令和5年6月1日（木）に幼児教育施設の職員と小学校の教員とで入学後の児童について情報交換会を開催した。

参加者 私立こ：10名、私立幼：7名、私立保：12名、小学校：19名

準備 参考資料「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
小学校での児童の様子をまとめた学校ごとの掲示物
教育委員会作成資料

■ 幼児教育施設、小学校職員による情報交換会

1月に実施した引継ぎでは、幼児教育施設から小学校に伝えたいことを中心に、引継ぎを行った。今回は、入学して2か月が経ち、小学校が幼児教育施設側に児童の支援方法等について聞きたいことを中心に情報交換を行った。その際、「幼児教育の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に、この姿に照らし合わせながら情報交換ができるようにした。入学後の児童の様子を写真にまとめ掲示したことで、幼児教育の職員にとって小学校教育の理解への一助となった。また、主旨に沿った情報交換が行えるよう、市教育委員会で作成した資料で情報交換の進め方について説明を行った。



■ 情報交換会における主な意見

○ 幼児教育施設保育者の意見から

- ・ 昨年度担任した子供たちの姿を小学校の先生たちの話を通して聞くことができてよかった。
- ・ 小学校に入学した後の話が聞けて「園ではこうだった」「もしかしてこういう理由かも」等やり取りができてよかった。
- ・ 「文字などは学校に来る前に他の子はだいたいできているから…」という主旨の言葉があって、それは不安になりました。

○ 小学校教員の意見から

- ・ 指導要録では分からないことが聞けてよかったです。
- ・ 小学校の様子をお伝えし、安心した表情をされていたので、こちらもうれしく思いました。
- ・ 次回は、幼児教育で取り組んでほしいことや、小学校で気を付けることなど、保育や学校教育に関する事で意見を交換したいです。もう少し時間があるとよかったです。

まとめ

成果：今回の情報交換会では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとにして幼児教育施設、小学校両方の視点で児童の支援方法を考えることができた。

課題：小学校の教員が、幼児教育を十分に理解していない質問等を幼児教育施設側にしていたことがあった、今後、改めて幼児教育への理解を図るべく研修等を検討する必要がある。

※ 教育委員会作成資料 一部抜粋

情報交換会を充実させるために

2023.6.1.Thu

① 入学から少し時間がたち、1月に行った引継ぎ会ではわからなかったことを幼児教育施設の先生に聞いてみましょう。

時々様子を見にいくと、1人であることが多いので気になるなあ。

1月の引継ぎでは、特に話題にならなかったけど...

小学校

幼児教育施設



環境が変われば、子どもの行動が変わることはよくあることです。幼児教育施設の先生方からいただいた話がきっかけとなり、子どもへのよりよい関わり方が見つかるかもしれません。

② 幼児教育施設の先生方が小学校の席をまわり、小学校での様子を聞いたり、質問を受けたりしてください。

〇〇さん、毎日元気に登校してますよ。

〇〇さん、小学校の様子はどうですか？

小学校

幼児教育施設



複数人数で参加する小学校の先生は、児童を分担して担当せず、どちらも全員の児童について答えたり、質問したりできるようにしてください。(スムーズな会の進行にご協力お願いします。)

③ 小学校の先生方は、幼児教育施設の先生に質問したいことを幼児教育施設の先生方に聞いてください。

〇〇さん、気持ちの切り替えがなかなかできないのですが、どうしてましたか？

選択肢をあたえたり、制限時間を設けたりしていました。

小学校

幼児教育施設



幼児教育施設の先生方も、卒園したお子さんのことは気になるところです。元気に頑張っていることを簡潔に伝えつつ、特に気になるお子さん等に絞って質問をしてください。

④ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を意識して質問内容を考えましょう。

〇〇さん、平仮名が書けなくて、数字も読めないんです。どうしたらよいのでしょうか？(適切な質問ではありません。)

絵本を読んでいるときに、「これなんて読むの？」ってよく質問しました。興味関心はあると思いますが...

小学校

幼児教育施設



幼児教育施設では、遊びを通して学びます。この学びを小学校の学習にどのように繋いでいくかを共に考えていきましょう。

幼児教育と小学校教育のよりよい接続のために

～授業を見合う会・研修会・講演会の実践を通して～

小学校と幼児教育施設の教員同士が関わる機会を設定し、情報交換を行うことで、子供たちが安心して生活が送れるようにしたいと考えました。また、今年度は保護者同士が子育ての悩みを共有できるように、ペアワークによる参加型の講演会を行いました。

参加者 町内小学校教員・町内幼児教育施設教員・教育委員会指導主事・社会教育主事・次年度、小学校に入学予定の未就学児の保護者・小学1・2年生の保護者
準備 ・学習指導案 ・校舎案内図 ・阿見町保幼小接続カリキュラム
 ・入学前の新入児童保護者への家庭教育講演会のチラシの配付

■「授業を見合う会（授業参観）の案内」

今年度も町内計画訪問時に、各小学校から学区の幼児教育施設に授業を見合う会（授業参観）の案内を送りました。参観では、主に1年生の児童が幼児の頃から成長した様子や小学校生活に慣れたか（不安を感じている様子は見られないか）という視点で、見ていただきました。

授業参観後のアンケートの感想をもとに、今後も連携を深めていきたいと考えています。また、小学校から幼児教育施設への参観ができる機会を設定していけるとよいと感じています。



■「情報交換会」

2月に幼児教育と小学校教育の接続のための研修会を実施しました。令和5年度に町内小学校へ入学予定の新入児童に対する理解を深め、実態に応じた適切な学習指導・生活指導が行えるようにすることを目的としました。

情報交換により実態を把握できたことで、子供たちが安心して小学校生活がスタートできる体制や環境づくりにつなげることができました。



■「親子・家族関係を強めるペアワークによる参加型講演会の開催」

町教育委員会生涯学習課の企画により、ペアワークによる参加型の家庭教育講演会を開催しました。対象は、入学前新入児童の保護者、小学1・2年生の保護者とし、小学校の教員の参加もありました。イライラやマイナスな気持ちをコントロールする方法を学ぶことができ、さらに、ペアワークを通して、保護者同士の交流を広げることもできました。



新型コロナウイルス感染症対策による規制が緩和してきたことにより、対面による情報交換等ができるようになってきました。小学校では、より詳しく新入児童の様子や生活について確認することができたので、スムーズな学校生活のスタートにつなげることができました。今後は、子供たち同士の交流の場が増えていけるような取組を検討していきたいと思えます。

保幼小の接続・連携を促すための研修

～情報交換会・相互授業参観の実践～

市内には、公立幼稚園3園、私立こども認定園3園、私立幼保連携型認定こども園2園、私立保育園8園、小学校5校、義務教育学校2校ある。幼児教育施設の子どもの育ちを小学校、義務教育学校へとつないでいくこと及び保幼の横のつながりを促進していくことが課題となっている。そこで、中学校区ごとの情報交換会、計画訪問時の相互参観、私立幼保連携型認定こども園2園と私立保育園7園の協力による夏季保育参観を実施した。

■「入学前サポートシートを活用した情報交換会」

参加者 公立幼稚園、私立幼児教育施設 R4 年長児担任、小・義務教育学校 1 学年担任

準備 事前連絡、入学児童のサポートシート、年間予定表、架け橋プログラムデザインシート

「小学校入学前サポートシート」を活用し、小・義務教育学校（1 学年担任教諭）と公立・私立幼児教育施設（令和 4 年度年長児担当職員）の参加協力を得て、7 月に開催した。中学校区ごと 5 グループに分かれ、それぞれ持ち寄った入学前サポートシートを活用しながら情報交換を行った。終わったところは、今年度の交流の仕方について話し合いを進めたグループもあった。



■「相互授業参観」

参加者 私立幼児教育施設職員、公立幼稚園・小学校・義務教育学校教員、教育委員会担当

準備 市内小・義務教育学校 7 校、公立幼稚園 3 園の計画訪問日程案内通知、指導案、感想用紙

計画訪問における授業参観には、各園・各校より 3～10 名程度の先生方の参加があった。小学校では低学年の授業を中心に参観した。公立幼稚園の計画訪問には、小学校低学年担任、教務主任、管理職、幼児教育施設の園長はじめ、多くの先生方の参加があった。



○ 幼児教育施設保育者から

- ・子ども達の生活しやすい環境作りがあり、勉強になった。自園でも取り入れていきたい。
- ・私立幼稚園は他の園を見たり研修したりする機会が少ないのでよい研修となった。

○ 小学校教員の意見から

- ・参観させていただくポイントを決めて公開していただき参考になった。
- ・子ども達が自立しており担任の先生方の少ない指示で行動できていることに驚いた。

■「夏季保育参観」

参加者 私立幼児教育施設職員、公立幼稚園・小学校・義務教育学校教員、教育委員会担当

準備 市内私立保育園・認定幼保連携型こども園への協力依頼及び日程打ち合わせ、市内幼児教育施設及び公立小・義務教育学校への夏季保育参観の案内通知、感想用紙

夏季保育参観は 8 月 1 日～9 日に実施。小・義務教育学校の低学年担当、特別支援担当の先生方、公立・私立幼児教育施設の先生方に参加頂き、主に年長児の 1 日の流れや園の特色等の紹介の後、1 時間程度の保育参観を実施した。参観後は質疑応答の時間を設けた。



○ 幼児教育施設保育者から

- ・小学校の先生と保育園の先生と参観後話し合いができたことがとてもよかった。

○ 小学校教員の意見から

- ・在園時の園児の生の姿を見せて頂き、とても勉強になった。今後も交流していきたい。

- ・保幼小での情報交換会、夏季保育参観、計画訪問時の授業参観を実施することにより、幼児教育施設と小・義務教育学校の先生方の意見交換や就学前後の子どもの姿を知る機会となった。
- ・私立幼児教育施設と公立幼稚園の相互参観により横のつながりを深める機会となった。
- ・今後、架け橋プログラムデザインシートに年長児・1 年生の一年間の活動をまとめ、子供の姿を共有し、更に連携を深めていきたい。

保幼小接続の質の向上のために

～夏季休業中における保幼小接続管理職研修会の実践～

河内町には、1つの義務教育学校と2つの公立こども園がある。今年度10月に2つの公立こども園が統合し、1つの新設こども園が義務教育学校の隣に開園する。そこで、「保幼小接続の質の向上」を目指し、8月1日に管理職を対象として研修会を開催した。研修会では、県幼児教育アドバイザーによる講話の後、写真を基に話し合うグループ協議を行った。

参加者 公立こ：1名、義務教育学校：3名、教育委員会：3名、教育事務所：1名、
県就学前教育・家庭教育推進室：1名

準備 モニター、幼児が活動している写真（講師に依頼）、事後アンケート入力用QRコード

■県幼児教育アドバイザー（神永直美先生）による講話

「保幼小接続の質の向上に向けて」

- 課題の把握（河内町の現状）
 - ・ 接続、相互理解はどこまで進んだか
 - ・ 接続の質が向上し、接続の効果を実感しているか
- 講話①「相互理解のために」
 - ・ 幼児教育における遊び ・ 遊びのなかの学び
 - ・ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
- 講話②「保幼小が協働していくために」
 - （架け橋プログラム）
 - ・ 違いを知ってつなぐ ・ 理念（子ども観）をつなぐ
 - ・ 幼児教育から生活科へ ・ 幼児教育の質の向上（探求と協働）



■グループ協議「写真を基に、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿のうち、どの姿が見られるかを話し合い、記載していく」

- 幼児教育施設保育者の意見から
 - ・ 生活科の授業がどのように組み立てられていて、1年生の担任の先生は、どのようなところをねらって授業をしているかも担任が直接聞ける場を作ってあげたいと思う。
 - ・ 保育者や1年生の担任の先生が、園小連絡会の交流だけでなく、さりげなく質問できる関係性を作ってあげたいと思う。
 - ・ 学校の先生方と、写真を通しての演習でお話できたことがとてもよかった。
- 小学校教員の意見から
 - ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目は知っていたが、実際に活動をあてはめることによって、理解が深まった。
 - ・ 写真をもとに、認定こども園の先生と話し合う時間や3歳児から5歳児の子どもたちの実態について直接話を聞く機会になり、とても有意義な協議になった。
 - ・ 幼児教育施設の先生の考えや子どもたちの見取り方をお聞きし、大変勉強になった。



幼児教育施設と学校の管理職が一堂に集まって取り組む保幼小接続研修会を実施できたことは、お互いの施設の職員にとって非常に有効で効果的な取組になった。今年度10月には義務教育学校の隣に新設こども園が開園し、1つの場所で町内全ての0～15歳の子どもたちが学ぶことになる。今後も保幼小接続の新しい形を模索し、さらに円滑な接続を目指していきたい。

就学前後の園と学校の連携について

～令和5年度第1回神栖市保幼小接続に係る研修会～

各小学校及び幼児教育施設において、幼児期の育ちと学びを小学校教育へと円滑に接続する取組の充実に向けて、茨城県幼児教育アドバイザーの神永直美先生による管理職を対象とした講話を聴講し、今後の取組に向けた協議を行った。

参加者 公立幼：4名、公立こ：2名、公立保：1名、私立こ：4名、私立保：13名、
小学校：14名

準備

- ・県幼児教育アドバイザー派遣事業への申し込み
- ・指導主事と市幼児教育アドバイザーとの打ち合わせ
- ・講師との連絡調整
- ・参加者には、各校での取組を話し合えるような準備を依頼



■講話 「 就学前後の園と学校の連携について 」

本研修会の講師として、茨城県幼児教育アドバイザーの神永直美先生を招き、就学前後の園と学校の連携の重要性と必要性についての講話をいただいた。講話では、保育現場の映像を含め、子どもの姿を中心とした接続について考えるきっかけとなった。

〈講話の柱〉

- 1 相互理解のために
 - ・幼児教育における遊び ・遊びのなかの学び ・幼児期の終わりまでに育ててほしい姿
- 2 保幼小接続カリキュラムの改善（架け橋プログラム）
 - ・違いを知ってつなぐ ・理念（子ども観）つなぐ ・幼児教育から生活科へ

■研修会における主な意見

○ 幼児教育施設管理職の意見から

- ・お互いの顔を知り、交流がもてたことが、今後の接続につながっていくと思えました。
- ・近隣の小学校、幼稚園、保育園と共通理解を深めることができた。
- ・コロナ禍においてできなかったこともあるので、これからはもっと積極的に色々なことにチャレンジしたいと思う。

○ 小学校管理職の意見から

- ・保幼小の情報交換をすることが、切れ目のない支援や学び、子どもの安心感につながっていると感じました。
- ・実戦に向けて組織的な体制を整える必要性を感じますが、管理職が率先して動いていくことが重要であると思えました。
- ・ゼロベースではない小学校のスタートカリキュラムの見直しを行う必要性を感じました。
- ・子ども同士の交流はもちろん大切ですが、職員同士の交流も大切にしたいと改めて思いました。

公立・私立の幼児教育施設や小学校の管理職が集まり講話を聴講することで、保幼小の接続についての重要性を再認識することができた。また、各施設と小学校が混在した協議では、これまでの取組や、今後の取組についての活発な意見交換を行うことができた。

幼児教育施設職員等合同研修会

行方市の幼児教育研修会は私立保育園・私立認定こども園職員も参加できるよう、夏季休業中に開催している。本市の幼児教育の課題としている「幼保小の円滑な連携・接続」「スタートカリキュラムから架け橋期へ」について、幼保小の連携接続の推進を図るため、講師を招いての研修会を開催した。

参加者 公立幼12名、私立保4名、私立こ8名、小学校19名、こども福祉課3名、市教委6名
準備 今回の研修会では、幼児教育施設職員に小学校での研修会を体験していただきたく、小学校を会場に開催した。こども福祉課と共催で実施し、私立保育園・私立認定こども園への連絡はお願いしている。当日も、こども福祉課には研修会の進行を課長に、受付を職員の方をお願いした。校長会研修会で、この研修会の周知を早くから、小学校の教員にも参加していただけるように研修会の参加を呼び掛けた。講話の前に北浦学区の幼稚園・小学校の取組を「実践発表」で行う。

演題 「育ちと学びをつなぐ幼保小の連携・接続～スタートカリキュラムから架け橋期へ」

講師 東海大学 児童教育学部 児童教育学科 准教授 ほうらい きしこ 先生

◆講演会の内容

○「学びに向かう力を育もう」

- ・子どもは、学ぶ意欲と学ぶ力をもった有能な学び手である。

○スタートカリキュラムの役割

- ・子どもが主体的に自己を発揮できるようにする場面青意図的につくる。
- ・「どうしたい？どう思う？」と子どもの意思を尊重し、任せる。

◆講演会における主な意見（アンケート結果より）

○幼児教育施設保育者の意見から

- ・子どもを尊重する、子どもの話を聴くことが改めて大切だ。
- ・子どもの経験を奪わないようにし、子どもの気づきを大切にする。
- ・学びに向かう力を育むために、笑顔・共感・安心感が大切である。

○小中学校教員の意見から

- ・子どもの「？」について一緒に考えていくことを大事にしたい。
- ・教師の声かけで子どもの姿が変わっていくので気を付けたい。
- ・入学してからの発見や喜びを奪ってしまわないよう配慮をしたい。



今回の研修会には、校長先生に多く参加していただいた。幼保小の連携・接続については、幼児教育施設・小学校が管理職を中心に組織として取り組む必要がある。「どうしたい？どう思う？」と子どもの意思を尊重し、安心して自己発揮できるよう任せて子どもの力を信じて、主体性を発揮できる工夫をしていきたい。

ひたちなか市「保幼小接続管理職部会」「保幼小接続担当者部会」の開催 ～令和5年度「学びをつなぐ」～

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のために、市内各幼児教育施設、小・義務教育学校の管理職を対象にした「保幼小接続管理職部会」と、保幼小連携・接続への取組を中心になって行っていく担当者を対象にした「保幼小接続担当者部会」を実施しています。

参加者

【管理職部会】 公立幼：4名 私立幼：7名 公立保：5名 民間保：16名
小・義務教育学校：18名 中学校7名

【担当者部会】 公立幼：4名 私立幼：7名 公立保：5名 民間保：18名
小・義務教育学校：18名



ひとが咲くまち。ひたちなか

配慮事項

【管理職部会】 行事等での連携ができるように、年間行事計画を持参してもらった。協議では中学校区でのグループに分けて話をした。

【担当者部会】 他園、他校とカリキュラムの交換を行ったり、講義を受けたりしながら、自園、自校のカリキュラムの見直しができるように、接続期のカリキュラムを持参してもらった。

■「管理職部会」「担当者部会」の内容

【管理職部会】

講 話：「幼児・児童・生徒理解に基づく個に応じた効果的な支援の在り方」

講 師：聖徳大学 心理・福祉学部長 山口 豊一 教授

グループ協議：中学校区ごとのグループに分かれ、個に応じた支援について話し合いをもった。

【担当者部会】

講 話：「保幼小の架け橋期における取組」

—ひたちなか市立三反田小学校1・2年生の体育の授業から—

講 師：県スポーツ協会掘原運動公園管理事務所 平澤 誉志幸 指導主事

グループ協議：子どもの学びをつなぐためにできること、入学後の関わりについて話し合いをもった。

■「管理職部会」「担当者部会」の協議における主な意見

【管理職部会】

- ・どの年齢であっても、安心できる環境や教師の関わりが必要だと再認識した。
- ・個別の教育支援計画をまだ作成したことがなかったが、作成をしていかななくてはならないと思った。

【担当者部会】

- ・接続期の授業の実践事例を伝えてもらうことができ、大変参考になった。
- ・接続期のカリキュラムの作成はできているが、学校で「適応できる」ことに意識が向いていた。「つなぐ」というところに意識を向けてカリキュラムの見直しをしていきたい



本市の幼児教育施設では、就学前までの幼児期にふさわしい教育を行います。小学校では幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を更に伸ばしていくことができるようにしていきます。

つくばみらい市幼児教育と小学校教育の接続のための研修会

令和4年11月30日（水）に、保幼小接続コーディネーター及び園内リーダー等を対象に、つくばみらい市における幼児教育と小学校教育の円滑な接続を推進することを目的とした「幼児教育と小学校教育の接続のための研修会」を実施した。

参加者 公立幼：3名、公立保：6名、私立保：3名、私立こ：2名、私立幼：1名
小学校：9名
準備 持参資料：茨城県保幼小接続カリキュラム
子どもがのびのびと遊んだり学んだりしている写真

■講話 県幼児教育アドバイザー 神永 直美 先生
「幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた相互理解」**1 相互理解のために〈幼児期の育ちと学びとは〉**

- ・遊びの中の学び
- ・乳幼児期の大切な育ち
- ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手がかりに

2 相互理解のために〈学びをつなぐとは〉

- ・架け橋期のカリキュラム
- ・理念（子ども観）をつなぐ
- ・幼児教育と生活科の共通点から

■協議における主な意見

協議の形式:グループ協議

協議の視点:「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに、各自が持参した写真から「子どもの育ちや学び」について考える。

○ 幼児教育施設保育者から

- ・改めて「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を身近に感じ、日々行っている保育の重要性を感じた。
- ・遊びの中にはたくさんの学びがあることが再認識できた。子どもの目線に立ち、遊びが広がるような声掛けをするとともに、自発性を育むために見守ることも大切だと考えた。

○ 小学校教員から

- ・幼児教育施設における日々の活動の様子や子どもの思いを聞くことができ、大変に参考になった。幼児教育施設で育ててきた力を小学校でも伸ばしていき、「子ども観」をつなげていくことが必要だと感じた。
- ・遊びが「探究的な活動」になっていることを知り、幼児教育施設の保育者が工夫して教育活動をしていることが分かった。小学校でも取り入れていき、学びを広げていくことで、児童の成長につなげていきたい。

本研修会実施により、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の大切さを再認識し、幼児教育と小学校教育の相互理解や連携につなげることができた。今後も、保育者と教員が共に協議したり情報交換したりする機会を設定し、市の幼児教育と小学校教育の接続・連携を図っていきたい。

保幼小接続担当者研修会の実施 ～幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けて～

概要

市内の幼児教育施設や小学校、市教育委員会の担当職員が集まり、研修及び情報交換等を実施した。子どもの発達段階に応じた育ちと学びを育むためには、保幼小の円滑な接続が不可欠である。そこで、茨城県幼児教育アドバイザーの先生を講師に迎え、保幼小接続に関する講話を聞き、小学校とその近隣園ごとのグループ協議を行った。

参加者 公立幼：1名、私立幼：1名、公立こ：2名、私立こ：7名

私立保：1名、小学校：13名、市担当者：2名

準備 県幼児教育アドバイザー派遣事業への申請、講師との事前打ち合わせ、市生涯学習課社会教育主事との連絡調整、市内幼児教育施設及び小学校への周知、持参資料（アプローチカリキュラム、スタートカリキュラム等）

実施日 令和5年3月8日（水）

■講話「幼児教育と小学校教育との接続に向けて」

講師：県幼児教育アドバイザー

茨城キリスト教大学文学部児童教育学科 飛田 隆 先生

「幼児教育と小学校教育の接続に向けて大切なことは、子どもたちのことを一番に考えること、そして保護者の気持ちに寄り添うことである。また、幼児教育施設や小学校職員のこととも考慮すると、多方面からの視点で関係者が必要なことを共有することが重要だと考えられる。」という部分を講話の土台としながら、「子育てアドバイスブッククローバー」や「茨城県保幼小接続カリキュラム」等を参考に、具体例を示して分かりやすく教えていただいた。

■グループ協議「幼児教育施設と小学校との円滑な接続について」

（小学校とその近隣園ごとの協議）

協議を通して課題や推進方策を検討し、幼小担当者間の共通理解を深める。また、今年度の実践や課題を踏まえて、来年度どのような取り組みができるか等情報共有を図る。

○幼児教育施設保育者の意見から

- ・授業参観では、担任の先生が全体に話をする際、子どもたちが考えやすいようヒントを与えながら丁寧に指導している姿が大変勉強になった。また、自分の頑張りを振り返る時間を、保育の中でも作っていききたいと思った。
- ・小学校訪問では、縦割り班のグループと一緒に遊ぶ機会がもてた。感染症対策に配慮しながら、可能な範囲での交流が実現できた。
- ・運動会等の進学先との交流ができていないので、復活させていきたい。
- ・園だよりと学校だよりを交換することで、お互いの情報を得ることができた。

○小学校教員の意見から

- ・入学前の引継ぎは放課後に実施していたが、昼間に園へ行き子どもの様子を見るのもよいと感じた。
- ・保育参観では教室環境も見ることができ、接続に生かせる部分が発見できた。
- ・来年度も積極的に（ICTの活用も含めて）交流の機会をもっていきたい。

まとめ

研修会を通して、幼児教育と小学校教育の相互理解や連携を深めることができた。今後も保育者と教員が情報交換できる機会を設定し、円滑な接続を目指していきたい。

保幼小接続推進のための合同研修会

～グループワークを取り入れた研修会の実践～

本研修会は、「保幼小の円滑な接続に向けて、担当者のスキルアップを図るとともに、幼児教育施設の職員と小学校教員間の連携に関する情報交換の場とする」ことを目的に、教育委員会指導課と生涯学習課の共催で開催している。

昨年、一昨年はコロナ禍の影響で、オンライン研修となったが、今年度久しぶりに一堂に会しての研修を実施することができた。

参加者 私立幼：1名、私立認可：10名、公立保：5名、私立保：13名、
小学校：16名

準備 講師依頼・講話内容打合せ等
参加者とりまとめ→座席・グループ編成

■講話「就学前教育と小学校教育における家庭との連携及び保護者支援」

【講師】茨城キリスト教大学 教授 飛田 隆 氏

幼児教育施設の役割や努力義務として、「保護者支援・子育て支援」がある。小学校でも保護者との連携は大切である。しかし、実践にあたり難しさを感じるのも「保護者との関わり」である。そこで、以下の内容で講話を依頼した。

- 保護者支援の基本的な姿勢
- 保護者の要望、質問にどう応えるか
- 保護者とのよい連携のために気を付けたいこと



■グループワークによる演習と協議

- ◎幼児教育施設での「個別の教育支援計画」作成に向けた演習
(教育支援ファイル「つちうら」を活用して)
- ◎講話を受け、保護者との連携の現状について協議
- ◎保幼小連携についての情報交換

○幼児教育施設保育者の振り返りより

- ・保幼小それぞれの現場における悩みや状況を話し合うことで、今後の課題や問題解決の糸口が見つかったように感じた。
- ・子どもたちが園で、今体験していることや、3月までに予想される姿を伝えたり、小学校入学後に必要とされる育ちを確認したりすることができた。

○小学校教員の振り返りより

- ・保幼小接続コーディネーターが校内で一人なので、不安であったが、相談できる相手が見つかりありがたかった。
- ・保幼の先生方も、小学校の教員も、情報交換の必要性を強く感じていたので、連携をさらに進めるためにできる事を考えていきたい。

- ・幼児教育施設・小学校ともに、大きな課題となっている、「家庭との連携・保護者支援」について、実践的な講話を聞くことができ、今後の実践に向けて、大変参考になった。
- ・近隣の保幼と小学校の職員が協議することができ、実情や課題について、顔の見える話し合いができた。学校ごとの連携協議会開催等、今後のさらなる連携強化に繋げたい。

「幼保小の架け橋プログラム」の視点からの研修の実践 ～幼児教育アドバイザーとしての取り組み～

牛久市の幼児教育センター事業は、令和5年度より幼児教育アドバイザーを加えた新たな体制となった。今年度は、保幼小連携事業の見直し、幼児教育施設における巡回相談員（専門家）による保護者支援・保育者支援の体制の再構築を行った。さらに、幼児教育施設の保育の質の向上を図るとともに、小学校の授業づくりに幼児教育の特性を生かした活動を進めることで、小1プロブレムの解消を図るためのさまざまな研修を行った。

■研修テーマ及び内容

- 研修①** テーマ：職員の資質向上を図るための管理職の役割
内 容：質の高い保育を進めるためには、保育者の資質向上を図ることが大切である。そのために、管理職としてどう関わるかの講演を聞き、さらに情報交換を行った。
対 象：幼児教育施設管理職（16名）
- 研修②** テーマ：自由遊びから課題発見力を高めるための見取り・関わり方について
—「環境づくりの大切さ」—を中心に
内 容：園児にとって自由遊びの時間は楽しい時間であり、子どもたちの成長を考える上で、この時間に主体性の育成と課題発見力を向上させることが、就学に向けての自立心の育成に結びつく。そこで、牛久市立第一幼稚園職員（幼児教育センター園）がプレゼンテーションを行い、講師からの助言を聞いた後にグループ協議を行った。
対 象：幼児教育施設の保育者（26名）
- 研修③** テーマ：小学校低学年の授業づくりに関して幼児教育の特性を生かした質の高い課題をどのように作りあげていくか
内 容：小学校低学年の授業づくりで、子どもたちが興味・関心を持つ課題を幼児教育の特性を踏まえてどう作りあげるか、低学年を担当する職員による日々の実践を踏まえたプレゼンテーションを通して学び合う。
対 象：小学校低学年職員・幼児教育施設保育者の希望者（29名）
- 研修④** テーマ：幼保小接続のための授業づくり
内 容：接続カリキュラムのねらいにそって、就学後の教科学習を踏まえた意図的な学習教材をどのように作りあげていくか、茨城大学教職大学院院生によるプレゼンテーションを通して、幼児教育施設保育者と小学校職員の希望者が学び合う。
対 象：幼児教育施設保育者・小学校管理職及び低学年職員の希望者（15名）
- 研修⑤** テーマ：課題・配慮を要する子を見取りと関わり方について
内 容：幼児教育施設保育者及び小学校職員にとって、保育や授業を進めるにあたり、障害や課題・配慮を要する子とどのように関わり育成していくか課題である。そこで、見取り方・関わり方の研修を通して職員の質の向上を図る。
対 象：幼児教育施設保育者・小学校管理職及び低学年職員の希望者（30名）

■大学との連携

牛久市は、令和2年度より茨城大学教職大学院とケースカンファレンス連携事業を進めており、公立幼稚園でアセスメントを行っている。その際、茨城大学教育学部教授の新井 英靖先生に研修会の講師及び助言者として指導していただいている。

■今後の取り組み

小学校職員に対し、保幼小接続の意義や大切さを啓発することが大切と考える。そのため、保幼小連携事業の中心に管理職部会を設置し、これまで以上に連携が図れるようにしていきたい。



研修④：幼保小接続のための授業づくり

幼保小の連携を意識した研修の実施 「幼保小の架け橋プログラム」の視点をもって

小学校・幼児教育施設・市関係各課の実践

本市では、幼保小の連携を強化し、就学へのスムーズな移行を実現するために相互訪問や協議の機会を設けている。また、幼児と児童生徒、地域の方々が活動をともにするなど、コミュニティ・スクール機能を生かした取組を実践している。

参加者 園児、児童、生徒、幼児教育施設教職員、学校教職員、はぎッズ応援隊、
地域連携コーディネーター、学校運営協議会委員

準備 それぞれの活動における資料

■ 幼児教育施設訪問・協議

市関係部局職員と教育委員会担当者、特別支援教育の知識と経験がある専門家が園訪問を実施した。特別支援教育の視点からの助言や支援方法、就学に向けて一人一人に合わせた適切な支援方法などを協議した。

■ 計画訪問における相互参観

小学校職員、幼児教育施設職員が市の計画訪問に合わせて授業参観し、互いの指導方法について研修を行った。

秋山幼稚園課題研究テーマ：日々の保育にESDを意識し、幼児が主体的に行動できるSDGsを追究する。

■ コミュニティ・スクールの機能を生かした活動

幼稚園、小学校、中学校、地域の活動（あいさつ運動、段ボールハウスなど）を各コミュニティ・スクールで企画・運営した。

■ 幼児教育施設職員と幼児教育担当者による研修会

架け橋プログラムを意識した、スタートカリキュラム、アプローチカリキュラムについて協議し、スムーズな移行と育てたい子ども姿の共有を図った。

○ 幼児教育施設保育者の意見から

・計画訪問において小学校を参観し、先生方の話を聞くことで、子どもの成長を実感できてよかったと同時に、幼稚園での遊びをとおしての学びについて改めて考えた。

○ 小学校教員の意見から

・幼児とのかかわりを通して、児童たちが成長することができた。また、幼稚園等の先生がたが、「遊び」を演出するために行っている環境設定は、とても参考になった。

本市の強みであるコミュニティ・スクールの機能を生かした連携は今後も継続していき、地域で子どもを育てる意識の向上を図りたい。また、育てたい姿についても幼稚園と学校だけでなく、地域の方々と共有する機会を設けられるとよい。

「幼保小架け橋プログラム」の視点から 「言葉による伝え合い」について考える

～令和5年度 町保幼小接続研修会での実践～

令和5年7月28日（金）に、園内リーダーと保幼小接続コーディネーターの研修会を実施した。県幼児教育アドバイザーによる講演の後、「言葉による伝え合い」に焦点をあてたグループワークを実施した。

- 参加者** 公立幼稚園 11名、私立幼児教育施設 6名、小学校 6名、教育委員会 2名
- 準備** ① グループワーク用ワークシートの作成
② 話し合いのグループ編成（公立幼稚園＋私立幼児教育施設＋小学校教員で編成）

■講演「幼児教育と小学校教育の円滑な接続のために」

公益社団法人全国幼児教育研究協会茨城支部参与 前常磐短期大学教授・副学長 福田 洋子先生

○参加者の感想から

- ・幼稚園や保育園と小学校の違いを知ることが最初の一步であることが分かった。
- ・幼児期に培った経験が小学校へ反映されていくことが、とてもよく分かった。

■グループワーク「言葉による伝え合い」に焦点をあてた子どもの姿について

○グループ協議の流れ

- ①最近見た幼児・児童の姿から、伝え合いが活発になった場面を付箋紙に短く書く。
- ②付箋紙をワークシートに貼り、グループの人に紹介する。
- ③どのような環境や援助があったのかを振り返り、共有したことを書き加える。
- ④伝え合う力をさらに伸ばすために、これからすべきことを話し合い、キーワードで書く。



	幼児 前年	幼児 後年	小学校1年生 前年	小学校1年生 後年
観察例	○言葉遊び ↓ 学びの姿をえ	↓ に楽しかったことや頑張ったことの実践	○学校探検	○できるよになったことの実践
議題				

※ 矢印と注釈: 幼児後年 → 小学校1年生前年 (次第に、多くの人に、具体的に、論理的に伝えられるようになっていく) / 幼児前年 → 幼児後年 (言葉遊び)

○幼児教育施設保育者の感想から

- ・各園や小学校での取組や考え方など、参考になることばかりであつという間に時間が過ぎてしまった。これからの保育に活かしていきたい。
- ・子ども同士の伝え合いに気付いてないところがたくさんある…と反省。それぞれの環境にもよるが子どもたちが日常話していることにも耳を向けられるようにしていきたい。

○小学校教員の感想から

- ・幼保の取組やねらいなどを知ることができた。当然違う部分は多いが、円滑な接続については学校にも持ち帰り検討していきたい。

<本実践のまとめと課題> ○成果 ◆今後の課題

- 講演を聞いた後にテーマを絞って話し合いをしたことで、園の遊びや生活と、小学校の学びを関連付けてとらえることができた。
- ◆1回の研修で終わらず、保幼小の先生が互いに参観したり、気軽に電話して情報交換したりできるような関係作りが必要である。「小学校入学前サポートシート」の活用とともに、管理職の先生方に積極的な保幼小交流も呼びかけていきたい。

「目指す子どもの姿」について語り合う研修会

～銚田市保幼小接続担当者研修会の実践～

保幼小接続担当者研修会を重ねてきた成果として、各エリア（中学校区）において工夫改善をしながら相互参観や研修会、交流活動の輪を広め、実践が積み重ねられてきていることがあげられる。そこでさらに充実を図るために、「目指す子どもの姿」を共有し、それぞれの立場から架け橋期の子どもたちの育ちを見取り、支え、生かしていけるような研修会を実施していくこととした。

参加者 公立幼：4名、公立保：2名、私立こ：2名、私立保：4名、小学校：7名

準備

- ・銚田市保幼小接続カリキュラム
- ・各保幼小のアプローチ・スタートカリキュラム
- ・グループワーク用ワークシート

■ 銚田市保幼小接続担当者研修会

【協議(1)】カリキュラムの検討

- 1 本年度担当者顔合わせ
- 2 協議(1)：接続カリキュラムの活用について検討
 - ・「活動（遊び）」と「目指す子どもの姿」とのつながりを具体的な場面で協議→どんな力を育みたいか共有
 - ※各保幼小のカリキュラムに反映
- 3 協議(2)：保幼小の連携・接続に関する取組について
 - ① 子ども同士の交流
 - ② 保育者・教員の連携
 - ③ ①②を「すぐ取り組めること」と「実施するために工夫改善が必要なこと」に分け、実施に向けた協議を実施

<令和4年度の協議により実施計画していたこと>

 - ・小学校スタート期の参観・協議の実施
 - 市内全小学校で実施（4・5月）



【協議(2)】年間を見通した取組の検討

「目指す子どもの姿」を共有した取組

■ 相互参観及び保育体験

中学校区ごとに相互参観及び保育体験を実施し、目指す子どもの姿を見取る

○ 幼児教育施設保育者の意見から

- ・中学校区で相互参観や交流活動を重ねていく中で、互いに理解が深まっているのを感じる。「目指す子どもの姿」をしっかりとつないでいきたい。
- ・改めて小学校を意識しながら保育する大切さを感じた。
- ・配慮を要する子どもの支援についても、さらに情報共有していきたい。

○ 小学校教員の意見から

- ・「目指す子どもの姿」を共有し、小学校教員と保育者との交流をさらに増やしたい。
- ・保育体験を通して学んだ幼児教育施設での取組の工夫を、小学校にも生かしていきたい。
- ・昨年度よりも直接の交流がさらにしやすくなった。顔が見える関係の中で、連携をさらに深めていきたい。

架け橋期における「目指す子どもの姿」を共有することで、これまでも実施してきた相互参観、保育体験、交流活動等がより充実したものになってきた。これらの実践を参考に、5歳児から小学校1年生の2年間を見通した架け橋期のカリキュラムへとつなげていきたい。

筑西市架け橋カリキュラムの作成～筑西市保幼小連絡協議会運営を通して～

筑西市保幼小連絡協議会では、幼児教育施設と小学校が情報共有し、相互理解を深めながら幼児教育の振興並びに会員の連携・親睦を図ることを目的としている。令和5年度は、「筑西市架け橋カリキュラム」を作成した。

筑西市保幼小連絡協議会概要

役員 幼児教育施設役員5名（私立・公立含） 小学校 校長1名
会員 筑西市内幼児教育施設 27園全職員 筑西市内小学校 26校 全職員
事務局 筑西市教育委員会 指導課



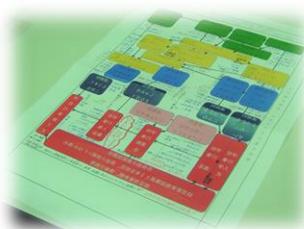
- 年2回の役員会開催 「年間を通じた活動の見通しと改善点等の確認」
- 年3回の研修会実施 「保幼小接続に関する取組の充実に向けた研修会」

○ 第1回研修会

- ・ 期間 令和5年5月から7月までに各学校で開催。（市教育委員会が調整。）
- ・ 研修内容 筑西市内全小学校が「茨城県保幼小接続カリキュラム」の「小学校入学期～1学期の終わり」に示された「具体的な子どもの姿」との関連を明確にしたうえで、小学校1年生の授業を公開し、筑西市内全幼児教育施設が参観した。
- ・ 協議・情報交換会 接続の在り方の改善点について、管理職、1年生担任が話し合った。

○ 第2回研修会

- ・ 日時 令和5年7月28日
- ・ 研修内容 筑西市内全幼児教育施設の園内リーダーと筑西市内全小学校の保幼小コーディネーターが参集し、各園のアプローチカリキュラム、各校のスタートカリキュラムを持ち寄り、筑西市接続カリキュラムを基に、筑西市架け橋カリキュラムを作成した。



○ 第3回研修会

- ・ 期間 令和6年1月から2月上旬までに各幼児教育施設で開催。（市教育委員会が調整。）
- ・ 研修内容 筑西市内全幼児教育施設が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「茨城県保幼小接続カリキュラム」の「幼児期の終わり」に示された「具体的な子どもの姿」との関連を柱に、年長児の保育を公開し、筑西市内全小学校が参観する予定である。
- ・ 協議・情報交換会 「架け橋期」を意識した情報交換会とする。



今後、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとし、共通の視点をもって教育課程や指導計画を具現化するため、筑西市架け橋カリキュラムを活用する。また、カリキュラムの検討・改善に計画的に取り組み、カリキュラムの質を向上させることが必要である。

幼児教育から小学校教育への なめらかな接続に向けて

～鹿嶋市架け橋期カリキュラムを活用した実践～

鹿嶋市における幼児期教育から小学校教育への円滑な接続を図るために、互いの教育について理解し、それぞれのよさを取り入れた効果的な指導方法の工夫及び改善、充実を図る。

参加者 公立幼：5名、公立認こ：1名、私立認こ：6名、公立保：3名、私立保：6名、
小学校：13名、幼児教育コーディネーター：3名

準備 参考資料「園・小学校の実践事例」「(案)鹿嶋市架け橋期カリキュラム」

■グループ協議「幼児教育と小学校教育をつなぐ」

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を手がかりとして、「幼児教育」「小学校教育」それぞれの良さを取り入れた活動を各小学校・園が事前に作成。作成した資料をもとに、幼稚園・保育園の活動が、小学校の教育にどのようにつながっているのか等、それぞれの取組を共有し話し合った。

○ 幼児教育施設保育者の意見から

- ・園と小学校のつながりの大切さがよくわかった。今園で行っていることが、小学校でも学びの姿につながっていると感じました。
- ・実践事例をあげての話合いがとてもよかった。園でも小学校でも「子どもたちのためにどうしたらよいか」という思いは一緒だと感じた。

○ 小学校教員の意見から

- ・園では、「自発性・主体性」を大切に様々な活動に取り組ませていることがわかった。幼児期の経験を知った上で、生活科の計画をたてていきたい。
- ・子どもたちは、遊びや体験活動を通して学んでいることがわかった。園の先生方は、子どもたちに話し合う場や環境づくりをしている。自分も話し合う場の設定を意図的にいきたい。

■講話「鹿嶋市架け橋期カリキュラムに期待すること」

アドバイザー「全国幼児教育研究協会茨城支部参与 福田 洋子 先生」

架け橋期カリキュラムのイメージは、幼児教育と小学校教育の双方から手をのばして橋をかけ、その上を子どもたちがとことこ渡っていくイメージ。鹿嶋市の「アプローチ・スタートカリキュラム」は子どもたちのための活動になっているか、豊かな学びや生活につながっているかを振り返り、さらによりカリキュラム作りに成長させてほしい。

○市としての取組（R5年4月～）

- ・鹿嶋市架け橋期カリキュラムリーフレット完成
(市内小中学校職員・保幼小職員に配付)
- ・保幼小間での相互授業参観・情報交換
- ・園児と児童の交流・園児と生徒の交流



まとめ

互いの教育をよく知ることが、なめらかな接続につながることに実感できた。幼児教育施設と小学校・そして中学校の先生方の垣根を低くし、お互いのよさを吸収しながら「気軽に訪問しあう・つながる」を目標に今後も交流し、よりよい教育を目指していきたい。

「保幼小接続カリキュラムの改善」と「就学前後の園・学校の連携」について話し合う

～令和5年度 幼児教育と小学校教育の接続のための研修会の実践～

令和5年8月9日（水）13：30～16：00、古河市野本電設工業コスモプラザにおいて、幼児教育・保育施設及び小学校職員等を対象とした教育課程編成等に関する合同研修会を開催し、古河市における幼児教育と小学校教育の円滑な接続を推進するために実施した。

参加者 私立幼：13名、私立保：15名、私立こ：5名、公立保：4名、小学校：23名

準備 研修会に参加するにあたって、携行品として依頼しておいたもの

- ①茨城県保幼小接続カリキュラム ②幼児教育各施設におけるアプローチカリキュラム
- ③各小学校におけるスタートカリキュラム ④生活科の教科書（小学校対象）
- ⑤年間行事計画

講話「接続カリキュラムの改善に向けて」

県幼児教育アドバイザーである茨城大学教育学部教育実践科学コース教授であり、茨城大学教育学部附属幼稚園長である神永直美先生をお招きして、「保育者と小学校教員の相互理解」「保幼小接続カリキュラムの改善」をテーマに講話をいただいた。

【小学校職員の感想】子どもたちが遊びを通して学んでいく姿について、なかなかイメージが湧かなかったが、もっと小学校でも子ども主体として遊びを取り入れながらスタートカリキュラムを組む必要があると思いました。

【幼児教育職員の感想】遊びを中心とした体験活動から小学校への学習への移行の話が、とても参考になりました。今まで書くことに焦点を当てていたため、子どもが遊びの中で自ら絵本を見たり、声に出して読んだりする時間を大切にしていきたいと思います。



グループ協議①「保幼小接続カリキュラムの改善に向けて」 ②「就学前後の園・学校の連携について」

参加者を、小学校の学区を中心に12グループに分け、上記2つの内容でグループ協議を行った。各グループには必ず小学校と幼児教育施設が入るようにグループを分けた。

【小学校職員の感想】他校の1年生の様子や、幼児教育の先生と話ができたことで、たくさんの情報を得ることができたので、とても有意義な時間となりました。

【幼児教育職員の感想】小学校の先生と話をさせていただいて、こんなことができたらいいということが聞けたので、幼稚園で実践していきたいです。また、小学校との交流会を対面で計画できたことは、園としても園児としてもとてもよかったので、これを機会に続けていきたいです。



本研修会はコロナ禍のため、令和元年度以来の開催になり、多くの方が初めて本研修会に参加したが、実施後のアンケートからは「有意義な時間だった」「来年度も継続して実施してほしい」という意見をいただいたことから、先生方は小学校・幼児教育の交流の場を望んでいたことが分かった。また、対面での交流の計画を立てることができる等、実効性のある協議となった。今後も、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を推進していきたい。

幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けて

～ 県幼児教育アドバイザーの活用による接続カリキュラムの検討について ～

概要・・・幼児教育施設及び小学校・義務教育学校の職員を対象とした幼児教育と小学校教育の接続に関する研修会を開催することにより、桜川市における幼児教育と小学校教育の円滑な接続を推進する。小学校区毎にスタートカリキュラムの検討・改善に向けて協議をすることで、架け橋期についての理解を深める。

参加者 公立こ：1名、私立幼：2名、私立保：3名、小学校・義務教育学校：13名
 児童福祉課：2名、生涯学習課：2名、教育指導課：2名（参集での研修）
準備 県幼児教育アドバイザー派遣事業への申請、決定通知後、講師との打合せ
 市内幼児教育施設への周知（児童福祉課）、市内小学校・義務教育学校への周知（教育委員会）、

■ 講話 「幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けて」(R6.1.26 実施予定)

【講師】茨城女子短期大学 副学長 こども学科 教授 助川 公継 先生

・市内幼児教育担当者、小学校の保幼小コーディネーターの先生方を集め、円滑な接続に向けての講話をいただく。その後、講話の内容を活用しながら、動画を視聴し、グループごとに協議を行う。幼児教育（遊びを通した学び）を理解し、その学びをどのように小学校教育の中で生かすことができるか理解を深めていけるようにしたい。幼児教育で目指す姿と、学校教育が目指す姿の違いを知り、それぞれの学びをつなげていくことの重要性を再認識したい。

また、スタートカリキュラムの作成・改善に向けて、保育者と教員が話し合いを行う時間を設定し、スタートカリキュラムの重要性や、次年度につながる取り組みを充実させていきたい。さらに、研究協議の中で出た意見を共有し、今後の課題・改善点につなげていけるようにする。

■ 各小学校の取り組み

○ 保育参観及び授業参観の取り組み

・教育支援調査員として、各学校の特別支援コーディネーターが園児の様子を参観し、情報交換をすることで、児童のよりよい理解・支援に繋げている。

○ 幼児と児童の交流について

・学校ごとに、入学説明会の時間の中で1・2年生との交流を実施している。生活科の授業を活用し、児童が作成した秋のおもちゃを幼児にプレゼントしたり、一緒にゲームをしたりするなど、交流する時間や、小学校の雰囲気を感じることができるような取り組みをしている。



<小学校教員の意見>

- ▲ 相互参観や情報共有する時間など、交流する機会を確保していきたい。
- ▲ 職員会議や支援会議等で、保幼小連携・架け橋プログラムについての研修を取り入れていきたい。
- ▲ スタートカリキュラムの見直しを行っていきたい。



コロナ禍により、幼児と児童の交流や、保育者と教員の交流の機会が停滞していたが、今年度より少しずつ戻ってきている。保育者と教員が顔を合わせて検討したり、意見交換したりする機会を設定したことで、幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けて具体的に動き始めるきっかけとしたい。スタートカリキュラムの見直しや架け橋期にどのような支援をすることがよりよい教育に繋がっていくか、これからも継続して協議・改善を図っていきたい。

保幼小接続のための連絡協議会

教育長の保幼小接続の重要性の講話から保育者と小学校教員がスタートカリキュラムを実施してみて協議する。保育者から卒園児の入学後の様子等を聞くことができる情報交換の場を設定する。

参加者 保育者 14 名 小学校教員：11 名

準備 各幼児教育施設のアプローチカリキュラム、各小・義務教育学校のスタートカリキュラムを準備、教育長への講話依頼、日程確認

各小・義務教育学校学区と幼児教育施設が同じグループになるようなグループ編成

■教育長講話 「接続期の教育の重要性」

教育基本法の位置づけ→第11条・・・幼児教育充実
小1プロブレム

家庭教育の弱体化→親を教育する機会が学校に依存
家庭教育学級で親を教育する必要がある
就学前に身に付けさせたい力

→生活科で交流、さまざまな体験活動
学びの連続性を意識



■協議における主な意見

スタートカリキュラムを実施してみて

○小学校教員の意見から

- ・年長児で椅子に座っている時間はどのくらいなのか。
- ・ぞうきんの絞り方、ぞうきんの使い方の指導。
- ・モジュールでスタートカリキュラム実施の時は行っている。
- ・着替えの時間の取り方、トイレに行かせる時間の取り方



○幼児教育施設保育者の意見から

- ・のりは手で塗るタイプののりを使っている。
小学校ではみずのりを使っている
- ・はさみの指導について
- ・1回で伝わらない時の指導の仕方
- ・えんぴつ使用について(三角形か六角形か)
→幼児教育施設によって異なっている。



保育者は、年長児が入学するまでにできるようになっていたほうがよいことを気にしている。机といすを使って何かを取り組むことや、トイレの時間にトイレを済ませるなど、学校生活を意識した教育を、どの時期から・どのくらいの頻度で行っているのか等、小・義務教育学校への質問したいこと、情報交換の時間を十分とれるような内容にする。

幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた取組

常総市

～常総市保幼小合同研修会の実践～

ねらい

市内幼児教育施設と小学校が合同で研修・協議することにより、保幼小の連携を推進し、今後の連携の見通しを立てる。

参加者 公立幼稚園：2名、公立保育所：5名、私立保育所：4名、幼保連携型認定こども園：3名
小学校（保幼小接続コーディネーター）：13名

準備 講師依頼（県アドバイザー派遣の申請）、研修会の内容の決定、場所の確保、模造紙、付箋等

開催日時 8月23日（水）

内容：講話「特別な配慮を要する子どもの支援方法と連携のあり方について」

帝京科学大学 梶井正紀先生

協議1・小学校区ごとに6ブロックに分かれて、「特別な配慮を要する子の支援方法」について協議。付箋にそれぞれの園・学校の課題と解決策を書き、共有する。

協議2・R5年度の連携のための協議。アプローチ、スタートカリキュラムについても共有する。

○参加された先生方の意見

〈小学校〉

- ・特別な配慮を要する子どもがどの園にもいると知り、安心感と共に驚いた。これから交流がもてるよう学校で話し、近くの幼児教育施設と連絡を取り合い、子ども達が安心して入学できるよう準備していきたい。

〈幼児教育施設〉

- ・保幼小連携の重要性を改めて感じました。先生方との話し合いで、支援が必要な子どもへどう対応しているかなど、参考になりました。保育所でも小学校入学へ向けてできることを進めていきたいです。



成果と今後の課題

- ・8月に実施したことにより、今後、いつ、どのように子どもたちの交流を行うか具体的に予定を立て、先生方の実践への意欲も高まった。
- ・協議1では、課題と解決策に分けて考えたことで、それぞれの抱えている悩みやそれぞれの立場からの取組を共有し、充実した話し合いができた。
- ・アプローチ、スタートカリキュラムにそれぞれ取り組んでいるが、まとまったものがないので、今後は、架け橋プログラムの作成をしていきたい。

市保幼小連携・接続体制の確立を目指して

—連携・接続協議会及び合同研修会で幼児教育への理解を深める—

本市では、中学校区毎に「こ幼保小中連絡会」を立ち上げ、円滑な接続に取り組んできたが、新型コロナ禍の中、中学校区間の取り組みに差が生じてきた。そこで、合同研修会に加えて新たに市主催の保幼小連携・接続協議会を立ち上げ、連携・接続体制の確立を図った。

第1回参加者	公私立幼児教育施設長 8名、生涯学習課 1名、教育センター 1名、学務管理課 1名、指導室 2名
準備	市保幼小接続カリキュラム、令和5年度活動計画（中学校区）
第2回参加者	公私立幼児教育施設の教諭、保育教諭、保育士等 8名、生涯学習課 1名、市教育センター 1名、学務管理課 1名、指導室 3名
準備	各中学校区毎の事業成果説明資料

■「第1回保幼小連携・接続協議会及び管理職研修会」 (R5.7.24)

- 内容：①組織づくり、②県就学前教育関係事業 ③本年度の取り組み ④管理職研修
- 園長の感想から
 - ・今回はそれぞれの考え方を確認・認識し合う貴重な機会になった。
 - ・校長先生が園の教育を理解しているかどうか交流などにも影響すると感じた。
- 小学校長の感想から
 - ・幼児期に培われる非認知能力の重要性を理解できた。管理職として意識を高くもちたい。
 - ・「園ではどうだった？」と聞く姿勢は小学校のいろいろな場面で必要と感じた。

■「第2回保幼小連携・接続協議会（実務担当者中心） (R5.11.24)

- 内容：①行政各課から情報提供、②本年度の進捗状況及び次年度に向けた協議
③研修：保幼小連携・接続の重要性—幼児期の教育に学ぶ—
- 幼児教育施設の教諭等の意見から
 - ・幼小だけでなく、幼児教育施設の中でも意識の差があると感じた。写真を用いた説明は公開保育に参加できない先生方にも伝わりやすいと思った。
 - ・接続・連携をさらに活性化させたい。また公開保育などの機会を増やしたい。
- 小学校教員の意見から
 - ・各中学校区の具体的な取り組みを知ることができ、今後に生かせる協議ができた。
 - ・低学年だけでなく、学校全体に周知できるようにしたい。

■幼児教育合同研修会（参加者：園関係 23名、小学校関係 18名） (R5.8.22)

- 内容：①講話：「特別な支援を必要とする子どもへの支援の手立てと幼小の接続」
講師：県幼児教育アドバイザー、筑波大学医学医療系准教授 水野 智美先生
- ②グループ協議：「特別な配慮を必要とする子への支援」
- 参加者の感想から
 - ・どの園や小学校にも様々な配慮を要する子どもがいることが分かり、引継ぎの大切さを実感した。
 - ・事例の持ち寄りで、情報交換がしやすかった。実態に合わせたスモールステップの指導を心がけたい。
 - ・水野先生がお話しされていたエピソードが実際の子どもの姿と重なり、参考になった。



行政関係者を含めた市主催の保幼小連携・接続協議会を立ち上げるとともに、管理職対象、実務担当対象研修会の実施により市の保幼小連携・接続体制が確立した。行政及び管理職を含む小学校の先生方の理解をさらに深め、円滑な接続と学びの連続性の確保につなげたい。

石岡市保幼小接続担当者等合同研修会（①R5.5.31②R5.8.17 開催） ～幼児教育と学校教育の円滑な接続を推進するために～

石岡市（21 幼児教育施設及び 19 小学校）における保幼小の円滑な接続を推進するため、保育者と教員による合同研修会を 2 回計画・実施した（昨年度は 1 回）。第 1 回研修会にて、「特別な配慮を必要とする子どもへの支援」への悩みが多く出されたことを踏まえ、第 2 回は「県幼児教育アドバイザー派遣事業」を活用して講師を招き、合同研修会を開催した。

参加者（第 2 回） 公立幼：無、公立保：4 名、私立幼・こ・保：15 名、小学校：19 名
市教育相談室：2 名、市職員（保健福祉部・教育委員会）等 8 名

準備 県幼児教育アドバイザー派遣事業への申請、決定通知後、講師との事前打ち合わせ
保幼小接続担当課（こども福祉課・保健センター・教育総務課指導室）との連絡調整
（生涯学習課）、市内幼児教育施設及び小学校への周知（生涯学習課）、市教育相談室・
石岡特別支援学校への周知、アンケート結果のフィードバック（教育総務課指導室）

■ 講話「特別な配慮を必要とする子どもへの支援（保幼小接続期）」

【講師：茨城キリスト教大学 文学部 児童教育学科 教授 飛田 隆 先生】

特別な配慮を必要とする子どもについて、保育や教育を見直すチャンスと捉え、子どもの視点から保育・教育内容や環境を考え、支援の手掛かり（遊び方・学び方・こだわりへの対応の仕方）等について事例を交えて分かりやすくご講義いただいた。講義後には、参加者からの質問（個別の教育支援計画の作成等）にも丁寧にご回答いただいた。さらに、グループ協議と一緒に参加いただき、現場（幼児教育施設・小学校）の悩みや困り感に寄り添いながら指導助言していただき、参加者にとってとても勇気づけられた講師指導であった。



■ グループ協議「特別な配慮を必要とする子どもへの支援について」

第 1 回、第 2 回と同地区や就学先を考慮した保育者と教員の混合グループにより、協議を行った。（4 人×10 班）話し合いで本音が出せるよう記録や発表はせず、事後アンケートに学んだ成果を記載するようにした。アンケートは QR コードから読み取って回答してもらうとともに、事後連絡の中で、入力する時間を確保できるよう配慮した。

- 幼児教育施設保育者の意見から
 - ・ 就学した小学校の先生と直接、子どもの特性について情報共有できてとてもよかった。
 - ・ 他園の保護者対応が参考になった。自園で取り入れたい。
 - ・ 園と学校の取組について相互理解することができた。
- 小学校教員の意見から
 - ・ 講話では子どもの対応について気付きやヒントを持てた。
 - ・ 2 回とも同じメンバーだったので、協議がより深まった。
 - ・ 来年度就学予定の子どもの情報を担当の先生から直接得ることができ、とても参考になった。



昨年度 3 年ぶりに合同研修会を（1 回）開催し、「小学校（幼児教育施設）の先生と対面で話し合えてとてもよかった」「今後も機会を設けてほしい」との意見が多かったことを踏まえ今年度は 2 回開催した。さらに各校・園による相互交流・研修等に繋げることにより、本市における幼児教育と学校教育の円滑な接続について、一層の推進を図っていきたい。

就学前から小学校、中学校へと切れ目のない支援を目指して ～円滑な保幼小の接続の実践～

概要・・・子供たちの適切な配慮や支援を考え保幼小の連携と円滑な接続を図るために、市の学校教育指導員を講師として、子供たちの特性に関する見取りとその対応策についての講義と協議・検討を行い、課題と支援の共有・連携を図っている。

参加者 公立幼：3名、私立こ：4名、公立こ：1名、公立保所：2名、私立保：1名
小学校：11名、中学校4名

準備 各幼児教育施設、小中学校における幼児児童生徒等の資料

■ 合同研修会の開催

特別支援教育の視点で、幼児一人一人の特性の見取りのポイントを知ることと必要な支援について考え、共有し、実践していくことで、小学校入学後の学校生活を円滑にしていきたいと考えて開催した。

令和5年3月8日 常陸大宮市学校教育指導員の講話、協議、情報共有

令和5年7月6日 常陸大宮市学校教育指導員、市の幼児教育アドバイザーからの説明
協議、情報共有

- 本市では、特別な配慮を要する新学齢児が増加傾向にある。
【各幼児教育施設からの配慮を要する新学齢児の人数報告（6月）】
令和4年度 43名 → 令和5年度 93名
- 幼児の特性と見取り及び効果的な支援を考えるための機会となった。
- 研修会に参加した先生方で共通認識をもつことができた。



■ 研修会の協議の様子から

- **幼児教育施設保育者の意見から**
 - ・小学校に入学してからの学校生活のために、身に付けておくべきことを改めて確認することができた。
 - ・特別な配慮を要する幼児への効果的な支援や保護者への適切な声かけなどを知ることができた。
- **小学校教員の意見から**
 - ・近隣の幼児教育施設への訪問は、なかなか機会がないので、情報交換の場があって良かった。
 - ・令和5年度入学の児童や新学齢児の情報共有ができて有意義だった。

■ 各小学校での指導室訪問における授業公開の実施

- **近隣幼児教育施設保育者による授業参観**
 - ・今年度は、小学1年生の様子や1年生の授業を参観する幼児教育施設保育者が増えた。
 - ・園でのアプローチカリキュラムと小学校でのスタートカリキュラムを意識した取り組みへとつながっている。

まとめ

園と小中学校の先生方との交流の場の設定をすることができた。研修会では、それぞれの現場の子供たちの実態について情報共有し、必要な支援等を多面的に考えることができた。また、幼児教育施設と小学校の先生方とのつながりを作ることができ、今後の連携へとつなぐきっかけを作ることができた。

保幼小中連携・接続のための研修会

～円滑な支援体制の構築～

概要…保幼小中学校の教職員及び保幼小中連携・接続に係る職員が合同で参加する研修会を通して、町における一貫した保育・指導等の推進を図っている。今年度、「特別支援教育での円滑な支援体制の推進」を重点に研修を行った。

■ 城里町保幼小中連携・接続のための研修

参加者	町内全幼児教育施設保育士、小・中学校教諭、適応指導教室指導員、教育委員会指導主事 合計15名
準備	自身や学校・施設等の日頃の取組資料（フォトセッション用） ・タブレットで撮影・保存した写真や動画、紙印刷した写真

研修テーマ「配慮を要する子どもへの支援について」

【研修1】講 話 テーマ「子どもに見通しをもたせる合理的配慮や視覚的な手立て」

講 師 水戸飯富特別支援学校 教諭 藁谷 朋子 先生

【研修2】グループ協議 テーマ「子どもに見通しを持たせる取組」

・グループ内で、各自の取組や学校・施設での取組を紹介し合う。

○幼児教育施設保育士の意見から

見通しをもたせる配慮が、普段の保育の中で行ってたことだと、改めて気付くことが出来ました。今後、行動面で困難な子や学習面で困難な子に対する対応の仕方等の講話も聞いてみたいと思いました。

○小学校教員の意見から

紹介していただいたものを、子どもたちの実態に合わせて活用していきたい。また、疑似体験では、不器用な子の気持ちがよく分かりました。これまでの自分の声かけを反省しました。これからどう声をかけていけばよいか、よく考えていきたいです。



■ 特別支援教育に係る授業参観

町内小学校での特別支援に係る集合指導訪問に町内幼児教育施設保育士等も参加し、授業実践（自立活動の指導）を参観

○幼児教育施設保育士の意見から

障害の特性に応じた様々な支援方法と教室環境を見ることができ大変参考になった。子どもたちが楽しみながら取り組んでいる姿が印象的であった。

まとめ

幼児教育施設における特別支援教育のニーズもますます高まる中で、研修及び参観ともに大変好評であった。「視覚的な支援」「見通しを持たせる手だて」についての共通理解を図ることで、支援を引き継ぐ意識が高まった。

【今後の取り組み】 ・小学校入学前サポートシートの実施（情報の共有化）

幼児教育施設と小学校との連携・接続の推進 ～「環境の一貫性について」の研修会をとおして～

保幼小接続についての本市の課題は、施設間での連携が不十分なことが挙げられ、昨年度はアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの改善研修を行った。今年度は環境の一貫性をテーマに、講師をお招きしての講話と、市内各園と各小学校の代表者による協議会を企画し、保幼小の連携の推進を図った。

参加者 公立幼児教育施設：1名、私立幼児教育施設：9名、小学校：11名
早期療育指導支援システム策定委員：7名

準備 当日は幼児教育施設にはアプローチカリキュラム、小学校にはスタートカリキュラムを10部ずつ持参していただくよう通知し、協議会で活用した。

■講話「環境の一貫性について」

本市の早期療育指導支援システムでご指導いただいている東北福祉大学の三浦 剛 教授を講師として、90分間の講話を行っていただいた。「環境の一貫性」をテーマに、毎日の自分たちのかかわりについてや、クラス替え、進級、進学などでの、あるいはその子供にかかわる人の「連携」の重要性についてお話しいただいた。

※参加者の感想

- ・変化がないことが安全安心につながるということが特に印象に残りました。教室の環境作りや、言葉かけなどに、今回の研修で学んだことを生かしていきたいと思います。(幼児教育施設担当者)
- ・子供の育ちの支援のためには、一貫した環境の整備が重要であると感じました。そのためには、幼稚園、保育園と小学校の連携は不可欠であると改めて感じましたので、積極的に連携を図っていきたいです。(小学校担当者)

■グループ協議「保幼小連携・接続に係る課題と方策」

参加者を中学校区ごとの4グループに分け、それぞれが作成しているカリキュラムの説明をとおして、保幼小連携・接続に係る課題と方策について話し合いを行った。

※協議における主な意見

○幼児教育施設担当者から

- ・小学校への進学はストレスになるので、小学校への引き継ぎが大切。
- ・療育に通っている子は学校に連絡がいつているので安心しているが、そうでない子は情報共有が難しい。多くの小学校が参観に来てくれているのはありがたい。
- ・園児のありのままの姿を見てもらいたい。できれば、普段の姿を見てもらいたい。

○小学校担当者から

- ・園では遊びの中で遊びの学び。しかし、小学校に来ると座っていないといけな。隔たりのないようにしたい。
- ・小学校では、遊びの中でひらがなを習得していけるようにしたい。

今回の研修会を通して、保幼小で一貫した環境を整備することの重要性について再認識できた。進学に伴い子供がストレスを感じることを少なくなるよう、様々な面での引き継ぎについて進めていきたい。また、今年度は保育参観、公開保育を実施した園が複数あった。小学校側にとっては、幼児の普段の姿を見る良い機会になるので、今後も進めていきたい。

〈取組の概要〉

下妻市では年2回「保幼小連携協議会」を実施し、市教育委員会幼児教育担当者、家庭教育担当者、全保育園、幼稚園、認定こども園の園内リーダーや、小学校の管理職及び接続コーディネーターが参集し、意見交換や情報共有ができる場がある。そこで、相互理解のもと教育内容の改善につながる取組が行われている。 〈参加者〉合計37名

◆第1回「保幼小連携協議会」 R5.8.18

市指導課のSSW兼公認心理師より、「特別支援教育から見る保幼小連携」というテーマで、さまざまな発達障害の特徴や症状、支援方法などについて具体的な講義を行った。講義後は、子どもの育ちをつなげる保幼小連携についてのグループ協議及び小学校区を中心に就学に関する情報交換等を行った。



講義に関する主な意見

- ・気になる子といえば発達障害を疑いがちであったが、愛着について学んだことで、気になる子の捉え方やアプローチの仕方などを具体的にイメージすることができた。
- ・支援をする際には、行動のラベリングをするのではなく、感情のラベリングで言葉かけをすることを大切にしたい。
- ・具体的な支援の手立てや方法、考え方やベースとなる型など、たくさんの情報をいただくことができた。そのために必要なスキルと意識を、保育に当たる私たちが兼ね備えられるようにしたい。
- ・子どもたちと接する中で、気になる行動がどういう要因で起こっているのか、どのような障害によるものなのか、今までは分からないと感じることが多かった。しかし、愛着という観点から考えていくことで、なぜそのような行動をとるのか、新たな気づきが生まれる場合もあることが分かった。

協議における主な意見

- ・コロナ禍で幼児教育施設と小学校との交流がなかなか実施できない現状があったため、大変有意義な機会となった。
- ・グループでの話し合いを通して、保幼小連携の重要性を再認識することができた。また、幼児教育施設から小学校への要望を伺うよい機会となった。
- ・さまざまな園児・児童への対応を知ることで、その子にとってどのような支援が必要なのか話し合ったことで、いろいろな支援の方法を考えることができた。協議を通して、支援方法の幅を広げることにつながられた。
- ・2月に実施予定の1年生との交流会の持ち方についても、園の要望を聞くことができたので、小学校に通うことがより楽しみになるような交流会の企画・運営に役立てていきたい。
- ・こういった時期に各小学校の先生方と顔見知りになって、互いに近い距離感で子どもの話をできる機会は、保幼小連携の始まりの一步であると感じた。

〈まとめ〉

- ・保幼小連携協議会を通して、小学校の教員が幼児教育施設を訪問し、アプローチカリキュラムでどのような実践を行っているのかを理解することで小学校教育との円滑な接続に役立てたり、就学後の様子を保育担当者が参観し情報共有することで、今後の支援の方策に生かしたりできるような場としていきたい。
- ・さまざまな発達障害のある子どもたちは増加傾向にあるため、特別な配慮を要する教育支援に関する研修も計画的に実施していく必要がある。

幼児教育と小学校教育の連携・接続のための研修会 (オンラインと対面のハイブリッド研修)

幼児教育施設及び小学校・義務教育学校の職員を対象とした幼児教育と小学校教育の接続に関する研修会を開催することにより、つくば市における幼児教育と小学校教育の円滑な接続を推進する。

参加者 93名（公立幼：16名、小学校：27名 義務教育学校：4名 公立保：21名 私立幼：1名 私立保：15 認定こども園：3 市教育委員会関係者（幼児教育担当者）：2名 市幼児保育課：2名 県南教育事務所担当者：1名 県教育庁担当者：1名

準備 幼児教育施設：アプローチカリキュラム
小学校・義務教育学校：スタートカリキュラム

■ 研修内容 「講話」(近隣小学校に研修者が集まったのオンライン研修)

「特別支援教育の視点から見る保幼小接続」

筑波大学 医学医療系 准教授 水野 智美 先生

発達障害のある子供は、小学校1年生では10人に一人の割合でいるとされる。発達障害のある子供に大切なのは、今何をするのか、次は何をするのか、どうしてそれをするのか、相手はどういう気持ちなのか分かる環境を作ることである。そのためには、指示の仕方を「はっきり、短く」「具体的に行う」「目で見て分かる手がかりを使う」こと等、工夫することが大切である。

障害のある子供をもつ保護者の障害受容は様々な段階がある。その段階を理解しながら、保護者とも話し合いを行い、寄り添っていく必要がある。

保幼小の連携に関しては、要録や個別の教育支援計画、引き継ぎ書などを用いて、子供の特性や成長過程、具体的な対応、保護者の障害受容の状態、医療機関との連携状況などを共有していく。

■ 協議における主な意見（グループごとの協議）

視点

- ・ 保幼小接続カリキュラムについて（特別支援の視点から）
- ・ 幼児教育施設と小学校との効果的な引継ぎについて
- ・ 先生同士の連携について（要録等）

○ 幼児教育施設保育者の意見から

幼稚園は、コロナ禍が明けて、小学校との交流、見学の機会を少しずつ設けることで、保幼小の連携を行っている。また、アプローチカリキュラムに沿って、生活に見通しをもち、時間を意識して行動できるよう、視覚的な手立てを講じるなど環境を整えている。幼稚園と小学校で取り組んでいる内容が重なる部分があるので、カリキュラムに組み込めればと思う。

○ 小学校教員の意見から

小学校は、スタートカリキュラムに沿って、入学からの学校環境に慣れるために、活動の時間を取り入れている。また、幼児期に「遊び込んだ」体験を生かし、学校生活に必要なきまりや約束を少しずつ覚えながら、安心感をもって活動や学習に取り組むことができるように支援している。今後は、生活科を中心として、幼児教育との接続を円滑にしていきたい。



特別支援教育の視点から、保幼小接続についての講話を聞き、考える視点が増えた。また、市としては、事例を紹介しながら、保幼小の架け橋プログラムの実施に向けて、幼児教育と小学校教育の関係者が連携し、カリキュラム・教育方法の充実・改善のための取組をさらに推進していく。

幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた取組

～取手市保幼小連絡協議会の運営～

○取手市では、26 幼児教育施設と 14 小学校の滑らかな接続を重視して、円滑な接続に向けた連絡協議会を実施している。今年度は、幼児教育施設における特別な支援を要する子についての理解を深めるため、特別支援教育コーディネーター連絡協議会への参加を呼びかけた。

参加者 取手市立小学校：14名、私立幼稚園：12名、私立保育園：8名、
公立保育所：5名、公立幼稚園：1名

準備 家庭教育推進室視聴覚教材「幼児教育から小学校教育へ」
説明資料（PowerPoint）、取手市保幼小接続年間計画シート
取手市保幼小引継ぎシート、各施設の年間計画・行事予定表等



■取手市保幼小連絡協議会 令和5年6月、令和6年1月実施

【内容】

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を核にした幼児教育と小学校教育の円滑な接続に関する研修を行う。中学校区ごとに分かれ、交流・連携に関する情報交換を行い、幼児期と児童期の「学び」をつなぐ。
- 相互授業参観や交流活動の取組を振り返り、令和6年度の取手市保幼小引継ぎシートや保幼小接続年間計画の立案・検討を行う。令和6年度の準備を年度内に進めることで、新年度に計画的に保幼小の円滑な接続に向けて、連携を図れるようにする。

【連絡協議会後の感想】

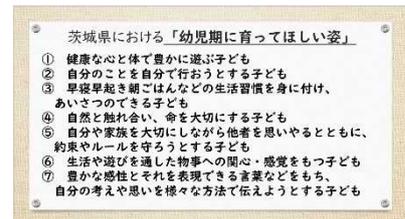
- 保幼小が連携を取り、共有できる部分を多くもつことで、幼児期の土台がしっかり作られ、児童期に入り生かすことができると感じた。（幼児教育施設職員）
- 保幼小接続を年長から1年生への接続と捉えるのではなく、幼稚園入園から小学校卒業までの9年間と考えて取り組むことが大切だと実感した。（小学校職員）

■取手市特別支援教育コーディネーター連絡協議会 令和5年8月実施

（幼児教育施設職員 14名参加）

【内容】

- こども発達センターの先生を招いて、発達センターでの養育や支援、小学校への移行支援についての講演会を行った。こども発達センターで取り組んでいる発達に遅れや心配のある就学前の子への支援について理解を深めることができた。
- 研究協議では、特別支援教育コーディネーターと幼児教育施設職員が情報共有し、「取手市相談記録ファイル」の活用状況や「小学校における特別な配慮を要する児童への支援」等、情報共有することができた。



同じ中学校区の保育者と小学校教員が参集し、情報交換を行うことで、相互理解につなげることができた。幼児期の子供の姿や小学校での学習の様子などを知ることで、新たな視点を持ち、日々の指導や支援について振り返り今後に生かすことができた。保幼小接続に関する研修や各学校区での相互授業参観等を通して、学びの連続性を確保する取組を進めていく。

憧れの小学生にダンスを教えてもらいました

～オンラインを活用した幼小交流～

- ・ 5月、小学校の運動会練習見学の際に、小学生のダンスを見て憧れの気持ちを抱く。
- ・ 9月に入り、幼稚園での運動会でを行うダンスの話題になると、小学生が踊っていたものを踊りたいという声が幼児から上がる。
- ・ 小学校の昼休みの時間を活用し、2年生の有志の子どもたちがオンラインで踊りを披露してくれた。踊りの様子を録画し、ダンスの練習に活用した。

参加者 公立幼…年長児：年長児担任

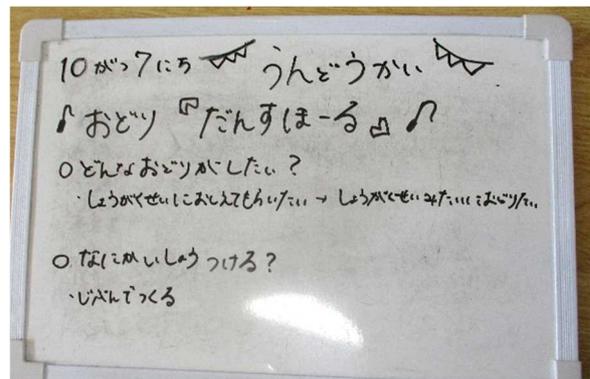
小学校…2年生 有志児童約10名：2学年担任

準備 ・スクリーン ・プロジェクター ・PC ・HDMI ケーブル

※スピーカーがあった方がよい



5月 小学校の運動会練習見学
小学生への憧れの気持ちが膨らんだ。



幼稚園運動会に向けての話し合い。小学生と
同じダンスがしたいとの思いが聞かれる。



9月 オンライン幼小交流
2年生にダンスを教えてもらう。小学生からも
教えてあげられて良かったとの感想があった。



小学生にダンスを教えてもらい、嬉しさや満足感を味わうことができた幼児たち。小学生
に対する憧れの強さを感じた。

まとめ

・ 5月に運動会の見学を行ったことで小学生への憧れを抱き、その思いがその後のオンライン交流へとつながっていった。日的に直接の交流が難しかったが、コロナ禍で習得したオンライン交流のノウハウをうまく活用することができた。

「幼保小の架け橋プログラム」の視点から 幼保小の交流を再開する ～大子幼稚園の実践～

概要

令和5年度の取り組みとして、年長児がだいが小学校の1年生、5年生とだいが保育園の年長児と交流を行った。

■「小学校1年生との給食交流会」（6月15日）

コロナ禍が落ち着き、小学校1年生と給食交流を再開する。今年3月に卒園した児童もいたので、園児たちは楽しみにしている様子が伺えた。小学校での給食の準備の仕方や片付け等、1年生から教えてもらうことができた。園に戻ってから、給食の仕方を小学校と同じく行うことにした。



■「小学校5年生との交流会」（6月22日）

5年生とじゃんけん列車やドッジボールのゲームをする。5年生児童から優しくルールを教えてもらい楽しく遊ぶことができた。



■「だいが保育園との交流会」（10月26日）

自己紹介の後に、11月14日に合同で行う防火パレードの練習をした。練習後は、すぐに仲良くなり、幼稚園の遊具で一緒に遊んだ。



まとめ

昨年度は、幼保小の交流活動がすべてなかったが、今年度は小学校と保育園との交流ができたことで、小学校生活に慣れるための土台ができた。今後は、保育者と教員が協議する場を設け、教育内容の改善につなげる取り組みを行っていきたい。

円滑に小学校生活をスタートさせるために ～一日入学の実践（袋田小）～

本校では、入学説明会のときに保護者と一緒に新入児も来校して、一日体験入学を行っている。幼児教育から小学校教育への円滑な接続のため、入学への意欲を高めたり、不安を和らげたりすることをねらい、新入児と1・2年生児童が交流したり、小学校の施設で活動したりしている。

参加者 私立保：6名、小学校：1・2年生児童18名
準備 画用紙、クレヨン等

■「1年生教室での活動」

1年生教室で、1年生の机と椅子を使用して絵を描く活動を行った。一人ずつ分かれての机に興味をもちながら着席し、配られた画用紙に思い思いの絵を描いていた。また、教室内の掲示物にも関心をもち、担当教諭に話しかける姿も見られた。ほとんどの新入児が、兄姉がいるため小学校には慣れている様子だったが、実際体験することで、入学への不安を和らげることにつながったと考える。

■「1・2年生との交流」

体育館で、1・2年生と一緒に遊んだ。遊びの内容については、1・2年生が、園児も自分たちも遊べて楽しめることを考えて決めた。



○ 小学校教員の意見から

- ・入学前に一緒に活動したり体験したりすることで、小学校を身近に感じ不安の軽減につながるのではないか。
- ・幼児との関わりは、児童にとっても良い経験で成長につながる。

小学校での体験や小学生との交流を通して、入学への不安の軽減につながっていると思われる。円滑な接続のために、幼児と小学生の交流を増やしたいと考えるが、小学校と幼稚園や保育園への距離が遠く、直接の交流は難しい面がある。また、保育参観や授業参観などを行い、保育者との情報交換をしたい。

生活科「わくわくらんどへようこそ」から 地域に根差した円滑な接続について考える

～里美小学校・さとみこども園の実践～

<取組の概要>

小学校と認定こども園の円滑な接続を目指すため、定期的に生活科の授業をとおして、こども園の年長児との交流とともに、担当教員の繋がり強化を目指した。

小学校区ごとの取組を推進している。

参加者 公立こ：2名、小学校：2名（管理職を含む）

準備 計画訪問時の全体会資料

事前の情報交換打合せ 等

■『生活科「わくわくらんどへようこそ」授業公開』（保育参観）

単元開始前に、園の保育教諭と小学校の接続コーディネーターが情報交換し、園児の興味関心や教材等に関する実態を情報共有し、それをもとに、単元構想した。

交流では、幼児と児童のあそびをとおした活動を小グループ単位で展開し、教員は個別支援を中心に対応した。



<活動の様子>



<当日の集合写真>

■参観後の協議会

- 幼児教育施設保育者の意見から
 - ・自分が昨年担当した児童の成長の様子がよく分かった。
 - ・保護者対応等の情報交換もできた。
- 小学校教員の意見から
 - ・情報共有することで、児童の実態を知る手がかりとなったり、来年度入学予定の園児の様子を知ったりすることができた。
 - ・定期的に交流することで、園児の成長の様子も分かった。



<まとめ>

- ・年間を通して、生活単元を中心に交流活動を推進していく。
- ・小学校区の実践活動を、架け橋プログラムの策定へ足がかりとしていきたい。

保育園と小学校の円滑な接続に向けた取組について

潮来小学校・潮来市立あやめこども園・認定こども園潮来こども園の取組

小学校への入学にあたり、園児の不安解消の軽減や円滑な接続を図るために、潮来小学校への就学予定の年長児と潮来小学校1年生との交流会を実施した。第1回目は、進学先である潮来小学校の学校探検を行うことで、4月からの生活をイメージしやすくした。第2回目として、12月に外遊びを実施し、小学生と園児、園児同士の交流を深める活動を行う。

参加者 (園児・児童) あやめこども園：17名、潮来こども園 15名、潮来小学校：33名
(職員) あやめこども園：3名、潮来こども園 2名、潮来小学校：2名

■第1回目「幼稚園の年長さんと学校を探検しよう」

【事前打合せについて】

○打合せ日時：令和5年10月25日(水)

○打合せ内容：①ねらいについて ②交流日について ③実施内容について

【当日について】

○探検日時：令和5年11月10日(金) 9時20分～10時5分

○交流内容：①顔合わせ ②学校探検 ③感想発表

【学校探検について】

○校内地図を基に案内順の計画を立てる。

○3～4名のグループを作り、グループで校内を探検する。

○確認をしたら地図に色を塗ることでチェックする。

○教室や特別教室についての簡単な説明も行った。



校内を探検している様子



自己紹介や回る順番の確認



特別教室では説明も行った

■第2回目「校庭で外遊びをしよう」

【実施日・実施内容について】

○実施日：令和5年12月12日(火)、雨天時は3学期に実施

○実施内容：鬼ごっこ(バナナ鬼・ケイドロ)・ヘビ鬼・長縄

・遊具の使い方の説明・園児同士の交流も行う

コロナ禍で中止していた保幼小の接続に係る交流会を今年度は実施することができた。交流会に参加した園児たちからは、「お兄さん、お姉さんにまた会えるのが楽しみ。」「小学校はたくさんの教室があるんだね。」などの感想があった。また、案内した小学生からは、「しっかりと案内することができた。」という感想があった。これらを継続的に実施することで、小学校に入学することに対する不安も軽減できる。また、案内をする1年生も責任感をもつことができ、両者にとって有意義な活動にすることができた。

幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた保幼小連携

～相互理解を深めるための取組を通して～

授業参観や保育参観、情報交流会などの取組を通して、幼児教育と小学校教育の相互理解を深めていく。また、架け橋期の教育について、共通の視点をもって保幼小の先生が協働することで、より相互理解を深め、幼児教育と小学校教育の円滑な接続ができるようにしていく。

参加者 保育所：1名、保育園：1名、義務教育学校：1名

準備 保育所・保育園の様子などの情報 等

■保幼小連携の実践 「保育士・教員の情報交流会、相互参観」

◎授業参観（千代田義務教育学校計画訪問）

第1回は、学校の計画訪問時に合わせて授業参観を実施した。国語科の授業で、「ちいさいっ」の学習をした。ペアの児童同士で言葉を探す活動や、カード作りを行った。児童が話を聞いて活動に参加する姿や、友達と協力して取り組む姿を見て、保育所や保育園の時から成長を感じられる時間となった。



◎保育参観（のぞみ保育園・やまゆり保育所）

第2回、第3回は、保育参観を実施した。来年度入学予定の園児の様子や園生活の流れを知ることができた。

◎研究協議

授業参観や保育参観の振り返りをし、感想や課題を話し合った。さらに、幼児教育と小学校教育の円滑な接続のために、入学までに身に付けておいてほしいことや、園生活で大切にしていることなどについても確認することができた。



■実践における主な意見

○幼児教育施設保育者の意見から

- ・ 卒園児の成長の様子が見られて、同じ園の子以外とも関わって生活している様子を見ることができ、安心。卒園後も情報共有ができてうれしい。
- ・ 小学校入学までに、こういう力を身に付けておくとよい、ということが分かって保育に生かすことができる。

○小学校教員の意見から

- ・ 保幼の先生方が園生活で大切にしていることが分かり、小学校に入学してからのスタートカリキュラムの見直しに生かすことができた。事前に色々な情報共有をしておくことで、入学後の生活の準備につなげることができると感じた。

幼児教育、小学校教育それぞれの子どもの実態を知ること、相互理解を深めることができた。そして、円滑な接続のために今後取り組みたいことの計画や、スタートカリキュラムの見直しを行うことができた。相互理解をより深めていくために、複数の職員で関わり、より円滑な接続ができるよう努めていきたい。

連絡協議会や保育参観、学校行事(文化祭・運動会)を通じた 接続ステッププラン

たま保育園・ひかり保育園・江川北小学校との実践

就学予定の保育園の保育者が、小学校を訪れ授業を参観する。また、就学前の情報交換の必要性が高いことから保育園及び小学校教員が参集し、入学園児の情報交換及び入学後の児童の成長や変化を確認する連絡協議会を開催する。更に学校行事を参観し、様々な場面での児童の成長や変化を確認するとともに、来校した保護者との情報交換を行う場とする。

参加者 【授業参観・連携協議会】たま保育園：2名（園長）、ひかり保育園：2名
江川北小学校：4名（特別支援コーディネーター、教頭）
【文化祭・運動会】たま保育園、ひかり保育園（園長）、学校評議員：5名
準備 保育園からの情報資料、個別の支援計画 等

■授業参観・連絡協議会の実施

就学予定の保育園の園長及び保育者が来校し、低学年の授業を中心に、全学年の授業を参観した。低学年の児童はもちろん、高学年の児童も保育園の先生方に再会し、たくさんの思い出話をして楽しく過ごした。保育園の先生方も、子どもたちの成長した様子、成長過程での課題を見出すことができるとともに、本協議会の意義を再確認することができた。

情報交換会は、小学校から第1・2学年担任と特別支援コーディネーター、教頭が参加した。子どもたちの現在の様子と就学前の様子を比較する中で、子どもたちの成長や変化について確認し合った。また、保護者との連携についても相互で情報交換を行うことができた。

■文化祭・運動会参観の実施

江北文化祭や運動会では、2保育園の園長及び学校評議員が来校し参観した。

ステージ発表や各学年の競技やダンスを参観するとともに、在籍した保護者と話し合う（子どもの成長の様子や情報交換等）場面も多く見られ、成長や課題の共有も図れた。



■実践における主な意見・感想

○幼児教育施設保育者の意見・感想

- ・授業参観や連絡協議会では、小学校の生活の様子や生活上の約束事を確認することができたので、就学までの過ごし方や生活の改善点など保護者への情報提供ができた。
- ・学校行事参観では、子どもたちの成長した様子や成長過程での課題を見出すことができたとともに、来校した保護者との情報共有が図れて良かった。

○小学校教員の意見・感想

- ・配慮を要する園児や児童について、保育園の先生と情報交換をすることができて良かった。
- ・各保育園の教育理念や教育活動を共有することにより、より良く教育活動が展開できるよう、連携することが大切であるという意識が高まった。

就学前の情報交換の必要性の認識は高いので、引き続き保育者と教員との情報交換を実施していく。また、小学校教員が幼児教育施設に訪問し、保育体験をするなど指導力の向上を図っていききたい。更に、就学後の情報交換の場も設定して児童理解を深めていきたい。

幼児教育との学びの繋がりを意識した生活科「いきものとなかよし」の授業実践

～幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿「自然との関わり・生命尊重」「協同性」を視点にして～

園との情報交換を数回行い、児童の成長の過程や保育者の関わり方を具体的に知ることができた。児童のこれまでの学びと今の姿、さらには今後の成長を見据え、学びの繋がりを意識した授業実践に取り組んだ。幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿から、主に「自然との関わり・生命尊重」と「協同性」に視点を置いて生活科「いきものとなかよし」を実践した。

参加者 森戸小学校児童30名

準備 保育者からの情報、虫網、虫かご、生き物のえさになるもの（草など）、カメラ、タブレット、虫めがね、生き物の本や図鑑

■ 授業実践

①見付けたことのある虫や、虫がいた場所について発表し、虫探しの準備に必要な物を話し合った。



②グループで虫探しをした。虫がいた場所の地図と写真を掲示し、見通しがもてるようにした。



③虫探しをしたときのことを思い出し、家作りに必要な物を考え、準備した



④虫の家作りをした。どんな家にしたら虫が喜ぶか意見を出し合い、協力して作ることができた。



⑤虫の世話を通して体のつくりや動く様子を観察し、見付けた不思議を発表し合った。



■ 実践をもとにした検討

園の先生に④の授業を参観していただき、一緒に振り返りを行った。保育者の視点で気が付いたことを聞くことができたのは、大変勉強になった。卒園した児童が成長した点についても伝えていただき、児童を認め励ますよい機会となった。生き物を飼うにあたり、環境を整えたりえさをあげたりと、世話をすることを通して生き物に親しむ姿が見られた。グループ活動では班長を決め、班長がリーダーシップを発揮して進めていった。時にはトラブルもあったが、話し合うことで折り合いをつけていった。今後も、様々な場面で全員がリーダーになる場面を意図的に作り、一人一人が輝く場の設定に努めていきたい。

まとめ

園との情報交換や保育施設の見学を通して、園児の様子や保育者の思いを知ることができた。園児の経験していることや成長過程を知ることで、繋がりを意識した指導や支援に生かすことができた。全職員でも共通理解を図り、学びの繋がりに意識を高めていきたい。

幼児教育・小学校教育との相互理解に向けて ～保育参観・授業参観の実施～境町立猿島小学校の実践

幼稚園と小学校の相互参観や意見交換をすることで、それぞれのよさや課題をより具体的に感じ取れる機会とした。小学校への参観には保育園児も同行してもらい、小学校への不安の軽減や期待や憧れの気持ちをもたせることも期待した。それぞれの参観の後に情報交換することで、保育園・小学校の職員がお互いをより深く理解することにつながった。

いずみ保育園への参観 境町教育委員会主催の相互参観へ参加
猿島小学校への参観 参加者 ひまわり保育園 園児13名 職員4名 小学校 職員 3名

【保育園への参観】

令和5年7月11日に、町内の保育園への参観及び保育園職員と小学校職員の協議が行われた。保育園の保育参観では英語活動の様子を20分程度参観した。

○小学校職員から

- ・英語活動を実施しており、保育園で高度な内容に取り組んでいることに驚いた。
- ・遊びの時間の中で協調性を学んだり感覚・感性を磨いたりすることの実際を見ることができた。そのための環境作りや、言葉かけなどの工夫があるのだろうと感じた。
- ・保育園と小学校の生活リズムの違いの大きさを感じた。4月に入った小学1年生のはじめの戸惑いはもっともであると思った。また、幼稚園ごとの活動内容の違いへの対応の難しさを感じた。

【小学校の施設見学及び授業参観】

令和5年9月20日に、町内の保育園の園児と職員による、小学校の施設見学と授業参観を行った。園児と1年生児童の交流活動を考えていたが、感染症の蔓延が心配された時であり、中止となった。

園児は校内の施設（特別教室や体育館、配膳室など）の見学や各学年の授業参観（各学年3～5分程度）を実施した。特別教室等、校内の見学においても、その広さや設備の違いを興味深く感じていたようだった。その後は、校庭や遊具の見学、ちょっとした体験等を実施した。

○幼児教育施設保育者から

- ・園児達は、保育園にはないさまざまな施設や教室を見て、園に帰ってから話題になるなど、小学校への興味が高まった。また、各教室の手作りの教室表示を見て、日本語と英語で書かれているのを見つけた。英語の勉強専用の教室があったりすることに、驚いていた。
- ・今回は交流はできなかったが、次回は是非実施したい。

○小学校職員から

- ・整列や授業見学時のマナーなど、しっかりしていると感じた。
- ・保育者の指示にしっかり反応し、規律よく行動できている。
- ・園児が参観していることで、低学年の児童は普段より張り切る様子が見え、よい刺激になった。



【1年音楽の授業の参観】



【理科室の見学】

お互いに環境の違いが大きいことが感じられた。年長の園児は指示やマナーがしっかり身に付いており、園での指導が感じられた。小学校入学時には頼りなさげに見えることもあるが、園で身に付けた力を引き継ぎ、伸ばしていくことの大切さを実感した。今回は、主に関係職員による、お互いの情報交換を行ったが、より多くの職員が意見交換を行える場を設定するなど、更に深い相互理解を進めたい。

一年生の日

～小学校生活を伝えるための実践～

境町立境小学校の実践

■ スタートカリキュラムの実践（接続を意識した取組事例）

概要 昨年度に引き続き、小学校の一年生の生活の様子をまとめたパネルを作成し、町内の幼児教育施設で見ってもらうことを通して、入学後、児童が安心して小学校生活を送れるためのスタートカリキュラムの実践

参加者 私立幼：おおぞら保育園 17名 私立保：境いずみ保育園 26名 はなぶさ保育園 51名
小学校：境町立境小学校 1年生 80名

準備 ・行事や日常生活、学習や活動の様子の記録（写真、カード等）

【1年生を迎える会】



【朝のスタート支援】



【異学年交流1年・6年】



上級生による入場や登校後のサポートでの励ましや声かけは、気持ちのよいスタートとなり、上級生とのつながりがもてた。また、6年生との交流を通して、学校のきまりや人との関わり方を学ぶことができた。

【いきもの・花となかよし】



「あさがお」の種まきから種取りまでの生育を観察し、新入生に「種のプレゼント」をすることを通して、上級生への意識を高めさせたい。

【生活科学学校探検1年・2年】



2年生からの招待の学校探検では、その後の活動に親陸が深まった。

■ 実践をもとにした検討

※意見交換の実施と園児の観察の様子を後日ファックス、メールにて回答。

○ 幼児教育施設保育者の意見から

- ・園の活動と似たような活動が小学校にもあることで親近感が湧き、新たな環境への期待が高まった。
- ・生活の中に園との連携が見られて嬉しく思う。（靴を揃える、朝の支度）

○ 小学校教員の意見から

- ・一年生は、在園していた頃を思い出し、園児に学校のことを教えてあげることができた。
- ・パネル作成を通して、これまでの活動や自分の成長を振り返ることができた。



1年生の生活の様子（パネル）

入学後、児童が安心して小学校生活を送れるための環境作りが、学校行事や生活科の学習を通して行われた。その様子をパネルで園児に見てもらい、意見交換を行うなど、接続を意識した創意工夫ある実践ができた。

スタート期（接続期）を意識した学習の取り組みのあり方

～境町立長田小学校の実践～

概要

ALT や友達と一緒に、簡単な英語でのコミュニケーションに慣れ親しむ活動

参加者 長田小学校 1年2組 24名

準備 ワークシート 他

■英語活動「What's your name and how are you?」の流れ

- ・英語であいさつ
- ・英語の歌をうたう
- ・「I」の文字の練習
- ・前時までの復習
- ・会話の練習
- ・ペアで発表
- ・学習のまとめ



■参観後の感想

○ 幼児教育施設保育者の意見から

- ・しっかり座って授業を受けることができている成長を感じた。
- ・ICTを取り入れて、場面を切り替えて集中を促していた。
- ・幼稚園ではリスニングはできるが、小学校では会話や筆記の学習があるところに違いがあった。
- ・ダンスで体を動かしながら楽しく活動していた。しかし、机や椅子がある分、ダイナミックさが変わってしまうと感じた。

○ スタート期を意識して・・・

- ・集中が続けられるように、短時間の活動から始めて少しずつ長くしていくようにする。
- ・幼稚園とALTの交流を設けて小学校の英語活動との連携が図れるとよい。
- ・入学後「やったことある！」というものを幼稚園で経験できるようにするとよい。
- ・1年生の授業を見て、幼稚園での生活の参考にできるようにするとよい。



今回、幼稚園の先生方と意見交換することで、就学に向けてしっかりとしてめあてをもって、様々な取り組みを行っているということがわかった。スタート期には、幼稚園での取り組みを活かしながら、小学校生活に慣れていけるようにしていきたい。

小学校探検に参加 ～小学校生活をイメージする～

ひまわり保育園の実践

- 小学校へ行き校舎内見学や授業風景を見る
- 校庭で遊ぶ

参加者 ひまわり保育園年長児 13名 猿島小学校
準備 猿島小学校への訪問依頼
 持ち物の確認
 撮影禁止となる児童の確認

■校舎内見学や授業風景を見る



1年生の授業を真剣に見ていました

音楽室では作曲者の写真や楽器に関心していました



理科室では人体模型を見て驚いていました

広い体育館では3年生の体育授業を見ました



■校庭で遊ぶ

タイヤ跳びにチャレンジしたりシーソー遊具に乗って楽しみました



■実践をもとにした意見交換

○小学校教員の意見から

- ・授業や教室を興味深く見ていた。1年生への意識をもっていた。
- ・思っていたよりも年長さんが、しっかりしていた。
- ・小学校では小さな1年生だけど年長さんと交流することで、お兄さんお姉さんとして活動できるよう、これからも交流をしていきたい。

○保育者の意見から

- ・学校には、いろいろな教室があることを知ることができた。
- ・生徒が真剣に授業に向かい取り組んでいる姿を見ることができた。
- ・就学への期待と安心感を味わえる体験となり嬉しかった。

小学校探検という初めての取り組みを、こころよく引き受けて頂いた猿島小学校に感謝です。実際に校舎内に入れて普段の風景を見ることができたことは、園児にとって貴重な経験であり、さらに就学への希望につながられたのではないかと思います。

さつまいも掘り

認定こども園はなぶさの実践

概要

・ 6月に苗を植え、その生長の様子を観察しながら収穫に至る。今年のさつまいもは大豊作で一つひとつのサイズも非常に大きかった。収穫しながら子ども達から「僕のでっかい!」「これもおおきい」との声が聞こえてきたので、実際に大きさ、重さ比べをすることになる。

参加者 認定こども園はなぶさ 年長児

準備 さつまいも、メジャー、はかり など

■「大きさ、長さ、重さ比べをしよう」

- ①大きさ比べ…大きいと思うさつまいもを持ち寄り比べっこをする
- ②長さ比べ…長いと思うさつまいもを持ち寄り比べっこをする
- ③重さ比べ…はかりを用いて実際に数字を見ながら重さを調べる

- ・ 大きいと思って量ったさつまいもが他のさつまいもの方が重かったことに驚く。
- ・ 一番大きい、一番長い、一番重いさつまいもを決める



■「3本袋に入れて持ち帰ろう」

- ・ 自分の好きなさつまいもを3本選び持参した袋に入れる。
- ・ 4本入れた子には、何本入っているかを確認し3本にするにはどうするかを共に考える。
- ・ 多い、少ないという言葉が出てくる。



まとめ

・ 初めは子ども達から出た言葉がきっかけで比べっこが始まったが、実際にさつまいもを並べて大きさ比べをしたり、重さを比べる事が出来て良い機会となった。

概要

ぞうきんがけやサークル活動は、自分の為だけでなく、周りにも目が向くような気持ちを育てたいと考え、年長クラスに新たに取り入れた活動です。
全ての事に丁寧に取り組む意識づけや季節を取り入れる工夫をしています。

参加者 おおぞら保育園：年長児 18名 担当保育士：2名

準備物 各活動における必要物

■年長児のとある1日(就学を見据えて…)

【ぞうきんがけ】 ☆全クラスのテラスを役割分担して、毎朝ぞうきんがけをします

- ① 自分の掃除場所を確認！
- ② 隅から隅までしっかりぞうきんがけをします
- ③ 終わったら、きれいに水洗い。また明日…

《工夫点》

気温の高い夏はエリアを狭くし、一人ひとりが自分のエリアに責任を持って取り組めるようにしました。



【サークル活動】 ★前日の出来事やみんなに知ってほしい事など発表します

～この日のテーマは…『クラスのルールの再確認』～

「丁寧に」「後の人にお気の毒」のルールを忘れていませんか？の問いかけに真剣に話し合う子ども達です。



- ・ 保育園の物は大切にだね
- ・ 使った絵本は元に戻そう
- ・ 貸したり貸してもらったりして使おう
- ・ 整理整頓をしよう



【絵画展にむけて】 ☆境町絵画展にむけて作品制作中

意見を出し合ってテーマを決め、その中から描きたいテーマを自分で決めます！

- テーマ1 ゆめの国
- テーマ2 絵本の世界
- テーマ3 夏

イメージが膨らむように
テーマに関連するワード
を出し合いヒントに…



自分で決めて描くって
意外と難しい…

描き始めたら楽しく
なってきた！！

まとめ

年長児としての自覚が育ってきて、小さなクラスの友達に優しく接する姿がある。又、周りの意見を聞こうとする意識が見られ、長い時間の話し合いに参加できるようになってきている。
今後は、より子ども達からの発信を大切にしながら楽しい活動を続けていきたい。

保幼小の連携・接続実践報告

認定こども園バンビーノせいしょう

> 秋まつり <

参加者 : 園児・保護者・教職員

内容 : 作品展示・年長組のショップ・ゲーム屋さん・教職員のゲーム屋さん

ここ数年は、コロナの影響で園児と教職員のみで平日に行っていましたが、今年度は感染対策を取りながら保護者参加型の秋まつりを開催しました。

子どもと保護者の楽しそうな笑顔を見ることが出来、また卒園生と教員の関わりなども持つことが出来て、短い時間でしたがとても楽しい時間となりました。

秋まつりオープニング 年長組「こども龍神まつり」



作品展示 クラスごとにテーマを決め、廃材を使って製作します



年長組「サバンナ」



めろんショップ 子どもや教職員が作った作品を売っています



めろんゲーム屋さん 年長さんが作ったゲームに挑戦です